

第 3 回 館 山 市 議 会 定 例 会 会 議 録

(第 2 号)

1 平成7年9月13日(水曜日)午前10時

1 館山市役所議場

1 出席議員 24名

1 番 辻田 実	2 番 本橋 亮一
3 番 三上 英男	4 番 小幡 一宏
5 番 忍足 利彦	6 番 鈴木 順子
7 番 斉藤 実	8 番 増田 基彦
9 番 島田 保	10 番 宮沢 治海
11 番 秋山 光章	12 番 植木 馨
13 番 脇田 安保	14 番 永井 龍平
15 番 山崎 雅己	16 番 鈴木 忠夫
17 番 岩村 勝弘	18 番 日下 君敏
19 番 川名 正二	20 番 神田 守隆
21 番 山中金治郎	22 番 榎本 春光
24 番 福原 勤	25 番 飯田 義男

1 欠席議員 1名

23 番 石井 昌治

1 出席説明員

市長 庄司 厚
収入役 川上 義雄
総務部長 神子 純一
経済環境部長 小沼 晃
水道課長 谷貝 実

助 役 小幡 清之
企画部長 永野 修
市民福祉部長 渡辺 富雄
建設部長 三平 孝司
教育委員会 会長 高橋 博夫
教 育 委員 長

1 出席事務局職員

事務局長 兵藤 恭一
書記 四ノ宮 朗
書記 小山 真

事務局長補佐 鈴木 哲
書記 安田 仁一
書記 松浮 郁夏

1 議事日程(第2号)

平成7年9月13日午前10時開議

日程第1 行政一般通告質問

開 議 午前10時02分

◎議長（辻田 実君） 本日の出席議員数24名、これより第3回市議会定例会第2日目の会議を開きます。

本日の議事はお手元に配付の日程表により行います。

行政一般通告質問

◎議長（辻田 実君） 日程第1、これより通告による行政一般質問を行います。

締め切り日の9月8日正午までに提出のありました議員、要旨及びその順序はお手元に配付のとおりであります。

これより順次質問を行います。

この際申し上げます。通告質問者は以上のとおりであり、他に関連質問等の発言もあろうかと思いますが、本日は通告者のみといたします。発言の方法は、最初の発言を20分以内とし、執行当局の答弁は時間外、再質問は答弁を含めて30分以内といたします。

これより順次発言を願います。

6番議員鈴木順子さん。御登壇願います。

（6番議員鈴木順子君登壇）

◎6番（鈴木順子君） おはようございます。本議会初めての、トップバッターの質問でございます。どうぞよろしくお願いをいたします。

私は、既に通告をしてございます3点についての御質問を申し上げます。

まず、1つ目の質問でございますが、老人保健制度の老人医療費の年齢引き下げについて伺ってまいります。現在実施をされております老人保健制度の老人医療費は70歳から無料となっておりますが、高齢者に対する自治体の取り組みには要求が近年非常に高まってきております。だれでも、いつでも、どこでも安心して医療を受けられる医療制度の確立を目指して日々努力をさ

れているところでございます。市内の多くの高齢者や家族の方々が願っている要求の中で、特に切望されていることの問題といたしまして、老人医療費の無料化がでございます。この問題につきましては、この議会におきましても発言をされ、また陳情で審議をされていたという経緯もございますが、そういったことを踏まえまして、あえて質問をするところであります。それを切望してやまない市民がいるということを考えたとき、私も今回のこの質問に踏み切りました。

国の法律で決められているのは、70歳から医療費が無料とされているわけですが、全国でも約半数の都道府県が独自に無料化をしているというふうに聞いております。引き下げた年齢枠はさまざまであるとは聞いております。そんな中、私の記憶では、東京都が美濃部都政だったころに65歳に年齢引き下げを行ったと認識をしております。残念なことです、私どもの暮らす千葉県では実施をするに至ってはおりませんので、当然各市町村で引き下げをしようとするれば、財政負担を負わなければなりません。そういった背景のある中、我が千葉県内での市町村での実施状況はごくわずかと聞いております。また、実施をしている市町村では、所得制限や条件など、さまざまな形で行われていると聞いております。

本来この問題は国の福祉施策として行われるべきものでありますが、そんな中、一部の自治体では自発的に年齢引き下げを行っているのが事実でございます。自治体レベルで行うのには財政の確保が必要になってきますので、現実には簡単に行えないことも重々承知をしておりますが、一方で住民の要求が高いことも事実であります。そんな中、実施に踏み切った自治体、検討を急いでいる自治体もあるやに聞いております。国の制度は70歳から医療費が無料となっておりますが、館山市独自で年齢引き下げを実施する方向で検討ができないものかどうか、お聞かせを願いたいと思います。

次に、2点目の質問に移ります。私はこの場におきまして、在宅で自力で通院できない人々のために歯の治療ケアを考えていただけないかとお聞きをした経緯がございました。歯科医師会での協議を得ている段階との答弁をいただいたと記憶しておりますが、その後検討をされたことと思いますが、ど

うなっていますでしょうか、お伺いをしていきたいと思います。

家から出かけるのが困難な状態にいる人にとって、医療面でのケアをどうしていくのか、大変大きな問題としてあります。本人はもちろんですが、介護者にとっても常に不安を持ちながら日々を暮らしているのが実情ではないでしょうか。そんな状況の中、お年寄りの切実な願いとして歯の治療の問題があります。風邪を引いても病院に行けず、近くのお医者さんに往診を頼まざるを得ない状況の人々、そういった人々は歯の治療に関しては何もできないのが実態であります。

歯は人間が生きていくためにはとても大切なものであります。特に、今日問題となっています老人性痴呆症と歯の因果関係が取りざたをされております。痛んだ歯を治療し、健全にすることにより、食物をよくそしゃくをすることで痴呆症予防になるとの報道もされていたのは御承知のとおりでございます。また、歯科医院に行けないために、やむを得ず入れ歯を入れないまま食生活を送っているお年寄りも多くいらっしゃいます。そういう方々には胃への負担も出てまいります。少しでも健康に暮らしていけるよう、行政から手を差し伸べるよう願っておりますが、私の願いは歯の検診、治療ですが、そういう願いに対して、館山市として在宅老人への手助けはできるのでしょうか、どうでしょうか。今年度予算に歯の検診事業が計上されているやに思いますが、その後どういう状況にありますでしょうか、進捗状況をお伺いしてまいります。

最後に、3点目の質問をいたします。在宅で寝たきりのお年寄りに助成をされておりますおむつの援助について伺ってまいります。寝たきりのお年寄りを抱えている御家族にとって、毎日の生活の中での日用品の負担額は、日々のことですので、小さいとは決して言えません。館山市では、在宅のお年寄りに対して現在おむつ代の助成をしておりますが、こういった内容であるのか伺ってまいります。

先日知人から、義父が施設に入所しているが、在宅寝たきりの人にはおむつの助成があるけれども、施設入所にはないのかと訴えがございました。おむつと一言で言っても、家庭ではほとんどの人が紙おむつを使用しているよ

うでございます。施設入所という、そうはまいらず、布おむつを使用しているところが現実にはあるということでもあります。手続など、さまざまな問題があることは承知をしておりますが、家族の負担軽減を図っていただけるよう、担当者は知恵を出し合って、よい方法を考えて助成をしていただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

以上御質問申し上げましたが、御答弁によりまして再質問をいたします。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの鈴木議員の御質問にお答えいたします。

第1点目、老人医療費の年齢引き下げ実施の拡大について、この御質問でございますが、老人保健法によります老人医療につきましては、現在70歳以上の方または65歳以上70歳未満で一定の障害の状態にある方に対しまして医療給付を行っており、館山市といたしましては、法の趣旨を尊重し、対応してまいりたいと考えております。

次に、2点目、在宅老人への歯の検診、治療はどうなったかとの御質問でございますが、館山市では、在宅寝たきり老人歯科保健推進事業について千葉県歯科医師会及び安房歯科医師会と協議をしましてまいりました結果、安房歯科医師会の協力を得まして本年度から実施するものでございます。この内容につきましては、市民福祉部長からお答えいたします。

3点目の在宅寝たきり老人等に助成されておりますおむつの援助についての御質問でございますが、館山市では、在宅福祉の推進を図るため、昭和55年度から市の単独事業として実施している制度でございますので、病院に入院している方や施設入所者まで拡大する考えはございません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 老人歯科保健推進事業の内容についてお答えいたします。

この事業は、歯科医師、歯科衛生士及び保健婦がチームを組み、在宅の寝たきり老人を訪問し、歯科健康診査あるいは口腔衛生指導、義歯使用の保健

指導、義歯調整の応急処置を行うもので、10月から実施する予定でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは、再質問をさせていただきます。

まず、1点目の老人医療費の問題なんですけれども、今市長から御答弁があったように、国でやっている事業ですから、そういったことを踏まえて、あえて私は質問しておるということをまず申し上げておきたいというふうに思います。

年齢の引き下げを行っている都道府県は全国で半数ぐらいというふうに聞いておりますが、こちらの方では、担当部課の方ではどういった都道府県が行っているのかということを把握しておりますでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 年齢引き下げをやっている全国の都道府県の状況という御質問でございますけれども、23都道府県で実施をしております。引き下げの実施の状況をとらえてみますと、一般老人を対象として、さらには所得制限を行って実施しているのが17都道府県、それから、ひとり暮らし、寝たきり老人等の特定老人を対象として実施している都道府県が6都道府県でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 約半数というふうに理解していいんでしょうけれども、これは財政的な負担というのが行う場合は自治体にかかるわけですから、そういったことを踏まえまして、担当の部長さんといたしまして、この老人保健制度というのはいろんなところで議論になっているのですが、立場を超えて、一人の人間といたしまして、この制度について現状でどういうふうにお思いになっているかどうか、お聞かせを願えますか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） この老人保健制度は、医療対策はもちろん

ですけれども、もう一つの柱であります保健事業、健やかな老後生活をいかに送るかということで、壮年期から健康管理あるいは成人病予防を総合的に行っているわけでございます。そういったことで、この制度は長期的に安定を図るということが必要じゃないかというふうに考えているわけです。したがって、先ほど市長から答弁いたしましたとおり、法の趣旨を尊重して対応していくことが重要であるというふうに私個人は考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） そういうお考えであるということをお聞きしてしまうと、非常に質問がしにくいんですが、しかし確かにそういった背景には、やっぱり財政的な問題が一番大きいんだろうなというふうに私は思うんですが、例えば県内での引き下げの実施をしているところがありますよね。私はこの近辺では余り聞いたことがないんですが、恐らくこういったことを進めていくのはやっぱり県北の方が中心的なんだろうと思うんですが、こういった県内での実施状況については具体的にこちらの方でつかんでおりますでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 県内の実施状況はどうかという御質問でございすけれども、確かに県北の大きな市といいますか、そういった地方団体が多いわけでございます。状況を申し上げますと、市では9市、それから町では1町、したがって千葉県下では10市町が実施しているという状況でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 確かに非常に少ない数なんです。それで、私の方でちょっと独自にお聞きしたところも幾つかあるんですが、年齢を1歳下げて無料化を行っているところであるとか、あと、ひとり暮らしであるとか寝たきり老人等、先ほども御答弁がありましたように、特定の老人への対象というんですか、そういったことがどうも行われているようなんですけれども、

例えば千葉県で最近、この7月から松戸市が引き下げを実施したというふうに聞いております。松戸の人口は館山と全然比較になりませんから、それを比較しろということじゃないんですが、あそこは69歳からということで、1歳年齢を引き下げて実施をしたというふうに聞いております。じゃ、それによって財政面でどれぐらいの市への負担があるのかというふうなことで、老人人口がごございますから、一概には数ではあれなんですが、金額的には2億余りというふうに聞いております。

館山でもし実施を — 1歳でも引き下げて行くとすれば、どのぐらいの財政負担が出てくるのかというような概算はできますか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 引き下げた場合の必要財源、これは丸々市から持ち出しという結果になるわけです。概算で試算してみますと、1歳引き下げることによって、館山市の場合には約1億近くかかるという試算でございます。したがって、さらにまた2歳下げて68歳からということになりますと、2億近くの持ち出し財源が必要になるという試算を持っております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 館山市は高齢化率が進んでおりますので、そういった金額が出てくるんだろうと思うんですが、例えば今館山市では、県の方の一覧表ですと、寝たきり老人を対象に、60歳からですか、無料化というふうになっているんですが、これはこういった扱いになりますか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 館山市の制度の中に身体障害者の助成制度が実はあるわけです。そういったことで、館山市の例をとりますと、館山市の心身障害者の医療助成 — これは館山市の独自の条例で実施しているわけでごございますけれども、身障、あるいはお年寄りでも障害、支障のある4級以上の該当者に助成を行っているという状況でございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 確かにこういった障害を持った人とか寝たきりの御

老人、お年寄りの方というのはそういった障害面での方の対応ができるというふうなことなんですが、実は私もこれ調査していきましてびっくりしたんですけれども、館山というところは福祉について非常によくやっているというふうなことがいろんなところで、県内で言われているものですから、これを調査してしましたら、医療費の年齢引き下げをやっているところに館山が載っているというようなことがありまして、よく調べてみましたら、これは障害の方の管轄だなということで、これが年齢引き下げに当たるかどうか、私もちょっと疑問を持ったところなんです、これはちょっと余談ですが、そういったとらえ方も一部ではされておりますので……。

そういったことにあれするわけじゃないんですが、自治体での負担ですね。医療費がなるべくかからないようにするということがまず一番だろうというふうに思うんです。そのために、先ほど部長さんの方からお考えを述べていただいた中にやはり予防を行っていくということの御意見があったんですが、この館山というところでは——館山というより安房郡内ですよね。安房郡内では、全国的にも非常によく注目されている問題の一つに、医師会病院の協力をいただいての総合検診の事業というのがありますよね。このことによりまして、多少医療費のかからないような手助けというのが私はできているんじゃないかなというふうに思うんですが、この総合検診をすることによりまして、老人医療費の削減に役に立っているというふうに市は思っていますかどうか、お聞かせを願いたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 市民の健康づくりにつきましては、健康教室あるいは健康相談、健康まつりなどのあらゆる機会を通して、健康に対する意識の高揚を図っているわけでございます。市民の皆さんが一人でも自分の健康に関心を持ってもらうということは大切だろうと思います。そういったことから、館山市も疾病予防の観点から総合検診あるいは各種がん検診を推進をしているわけです。その結果、疾病を早期に発見し、適切な治療や健康相談、生活指導によって医療費の削減に役立っておるというふうに考えているわけです。市民の皆様に検診を受診するという意識を持っていた

く、こういったことが一番大切ではないかというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 確かに本当に私もそのとおりだとは思いますが。ただ、私はこれは——例えば千葉県がこれを、年齢引き下げを行いますというようなことを県が打ち出してくればまことにいいわけです。そうすれば、館山市の財政負担というのが、不安が解消されるわけですから、そういったことを県の方にお願いをしていただけたらなというふうに思うんです。こういったことで、例えば県に対してお願いをしたというような経緯はありましたかどうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） そういった経緯はございません。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） 今までなければぜひしてほしいんです。というのは、確かに県内の市町村でいいますとまだまだ少ないんですけれども、少ないからやらないということじゃなくて、その財政的な裏打ちがあるのはわかっています。わかっていますが、それを全部、一般老人全部にやるとか、段階的に踏んでいくこともできるんじゃないですか。例えば所得制限を設けてみるとか、方法は幾らでもあると思うんです。そういったことをぜひ今後の課題として行っていつていただきたい。あわせて、県にもやっぱりそれは要望をしていつてほしいというふうをお願いをしておきたいと思います。

次に、2点目の質問なんですけれども、歯の検診についてなんです。先ほどの部長の方からの詳しいお話ですと、歯の検診というふうにとらえているんでしょうか、それとも——検診なのか、治療なのか、それとも検診治療なのか、その辺ちょっと、もう一度お聞かせください。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） この事業は基本的には検診でございます。ただ、これから実施する中で、サービスの治療ができる範囲はどの程度か

ということを含めて、できたらやっていきたいという計画でございます。そのサービス治療として考えておりますのが歯科歯周疾患、あるいは齲蝕、義歯の調整等の応急処置というものも含めて実施したいという考えでおります。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6 番鈴木さん。

◎6 番（鈴木順子君） そうすると、本当に食べることができないで困っている状況、状態の人には簡単な義歯の調整ということですから、そういったこととか、簡単なことはできるけれども、それは治療ではないというふうにとらえていいのでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 先ほどつけ加えたサービス治療、これも治療の一分野というふうに理解をしております。ただ、それ以上の治療になりますと、訪問先での治療はいろいろ課題があるようでございます。一応歯科医師会にはその旨要望はしてございますけれども、いろいろな課題があるために、今すぐという体制ではないような状況でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6 番鈴木さん。

◎6 番（鈴木順子君） それでは、例えば千葉県内ではこういった事業を行っているというようなところがありますでしょうか、どうでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 県下の他市の状況を申し上げますと、平成6年度時点では、主に県北になりますけれども、9市が実施をしております。それから、平成7年度に入りまして袖ヶ浦が実施に踏み切るということを伺っております。館山市を含めて11市という状況でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6 番鈴木さん。

◎6 番（鈴木順子君） かなりこれは在宅でうちから出られない人にとっては重要な問題ですから、そういったことを踏まえながら、少しずつそういった事業が――年数を見ますと、そんなに古い歴史があるとは思えませんので、

少しずつ広域的に見られてきたのかなというふうに思うんですが、例えば検診を、この事業を行うにつきましては、どういった方々が対象になるんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 対象者は寝たきり老人またはこれに準ずる者で、原則として65歳以上の者という対象をとらえております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） そうしますと、寝たきり老人とそれに準ずるということだと、まさにうちから出られない方というのはそのまんまなんだなというふうに思うんですが、私はこの事業がスタートするということにつきましては、10月からということですから、非常に評価をしております。1つのスタートに立ったなということで、それなりに評価はしておるんですが、やはり治療ということがどうしてもここで次の問題として出てくるんじゃないかというふうに思うんです。例えば検診をしまして治療が必要だなというふうに認められた場合、そういった場合はどうやって対処していくんでしょうか。例えばそれをごらんになったお医者さんが対応なさるのかどうかちょっとわかりませんが、お医者さんがどこか病院を紹介してくれるとか、そういったところに行けるような例えばシステムをつくるとか、そういったことまで考えているんでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） サービス治療をさらに拡大してと、その対応はということでございますけれども、訪問先での治療、いろんなケース・バイ・ケースがあるわけです。それに応じた機器を持ち込むというのは大変だという1つの課題があるわけです。原則的にはこの訪問治療によって指導し、そしてそれ以上の治療になりますと病院の方に行っていただくというのが原則でございます。それを、治療をさらに拡大ということになりますと、先ほど申し上げましたとおり、いろいろな課題があるということから、今後の検討課題になろうかというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6 番鈴木さん。

◎6 番（鈴木順子君） 確かに治療するための機材を積んでお宅に出向くというのは非常に大変なことだろうなと思って、お金ももちろんかかるでしょう。そういったことをたしか、もう大分前ですが、関西の方の自治体で行ったというふうなことをちょっと聞いたことがあります、基本的にいってそこまではちょっと無理なのかなというふうなのが — 私もしてもらいたいですけれども、そこまでは無理なのかなというのが気持ちの中にはあります。ただ、やはり食べるということのはどうしても — 寝たきりの方とか、それに付随するような方ということのはどうしても動いていませんから、動きが非常に鈍いですから、食べるということのは非常に大事なことです。そういったことによってほかへの障害が出てきてしまうということになりますので、これは1つのスタート台として評価いたしますが、これは本当に大事なことです、この先へどうやって進めていったらいいだろうかということも含めまして、ぜひともこれは検討してやっていただかないと困るというふうに思います。

例えば私は — まるっきり動けない人というのは私もちょっと考えが及ばないんですが、多少だれかが介助すれば何とか動かせるというような人についての治療については、例えば地元の医師会との連携をとって、市の方でお願いをするみたいなことができないのかなというふうに思うんですが、その辺どうでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） この事業はこれからスタートしようという初めての新規事業であるわけです。そういったことから、この実施の過程の中で、これからの実施の過程の中でいろいろ課題が生まれてこようかと思えます。そういったことを1つ1つこれから課題に取り上げて検討を加え、さらに事業の推進、拡大を図っていきたいという考えは持っております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6 番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） その辺のことについては部長さんの方も十分認識をしておられるというふうに思いますので、ぜひともこういったことをこれから — 大事な本当にいい事業ですから、そういったことをスタートするについては、課題としてやっていきたいというふうにおっしゃっておりますので、ぜひともそういったことを前進されていけますように要望いたしておきます。

それで、最後なんですが、これはおむつの問題なんですが、これはほかの市町村ではどうなのでしょう。また、手続なんていうのはどうやってやっていますでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 県下の状況ですけれども、この助成を行っている市は、30市中20市で行っております。ちょっとその実施の具体的な内容については手元に資料がございませんが、実施している状況は以上の状況でございます。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） それでは、例えば一番最近ですと、この時期ですから、平成6年度の実施状況はもう出ているんじゃないかと思うんですが、それをお聞かせ願えますか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 6年度の館山市の状況ですけれども、助成を受けた方は24名、そして延べ 170月という実績でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 6番鈴木さん。

◎6番（鈴木順子君） これは実際に介護されている方とかその家族の方でないと本当にわからないと思うんですけれども、たかがおむつという言い方をする人もちまたにはいますけれども、これは日々のことですから、非常に大きな額になるんです。例えば我が家では、病院に入院していましたときにおむつを自分で買って持参してやっていたから、これは確定申告で何とかクリアされたということがあるんですが、先ほども申しましたように、質

問の中で申しましたように、施設に入所されている方が非常にこれはネックになるんじゃないかなと思うんですが、布おむつを使っている場合、これはおむつ代として、例えば1枚幾らというふうな値段計算をされまして、約2万円ぐらい――毎月ですよ、入所費のほかに2万円ぐらいおむつ代として支払わなければならないというようなことがありますて、その家庭にとっては非常に大きな財政負担になっているというふうなことが事実であります。今は在宅の寝たきり老人を対象にというふうなことです、ただ今後につきましては、やはりこれはもうちょっと弾力的にやっていかないと、片手落ちじゃないかなというふうな気がしてなりません。

そういった意味合いをもちまして、現在たしかおむつはかかった額の2分の1までで、最高が5,000円というふうに聞いておりますが、そういったことも踏まえまして、例えば全額補助をしていこうというふうなこと、あるいは施設入所している人たちへの補助をこれから考えていけないかということにつきまして、率直にお答えをお願いします。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） この助成制度は館山市の単独事業であるわけですから、そういったことから、さらに拡大ということになりますと、それ相当な財源が必要だということで、先ほど市長から答弁いたしましたとおり、今の時点では拡大する考えはございません。そういったことで、これからこの制度の中で、さらに対象者の拡大あるいは運用の内容をこれからの1つの課題としてとらえていきたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 以上で6番議員鈴木順子さんの質問を終わります。

次に、20番議員神田守隆さん。御登壇願います。

（20番議員神田守隆君登壇）

◎20番（神田守隆君） 既に通告をいたしました5点についてお尋ねをいたします。

まず第1点は、館山市の平和都市宣言の理念とその施策についてであります。8月12日から14日まで3日間にわたって、館山市コミュニティセンター

において「戦後50年・平和を考える集い」が市教育委員会後援のもとに開かれました。この集いを主に準備したのは高校の先生たちでありましたが、大変熱心に戦争中の館山や、あるいは安房の歴史を調査をいたしました。市内各地に残されているさまざまな戦争にかかわる遺跡の状況や、また実際に関係した人々からの聞き取りや、さらにそれらを裏づける国立国会図書館や防衛庁に残る軍関係の各種の公文書の調査や、さらに敵国であったアメリカ軍の公文書書類など、丹念に調査をいたしました。こうした調査の結果浮かび上がってきたことは、沖縄戦の後に想定されていた本土決戦は首都防衛を中心にしたもので、館山などの安房地域がその最前線であったということでありました。

敵の艦隊の東京湾内への進出を阻むために、爆弾を抱えて敵艦船に体当たりするベニヤでつくったボートのような震洋部隊や、人間が乗り込むことで命中精度を上げる有人ミサイル桜花発射基地の建設など、人間の命を鉄砲玉のように消耗する特攻戦術がその中心になっていました。現在の我々からは到底理解しがたい無謀きわまりない悲惨かつ愚劣な作戦が当然のことのようには組まれていたのであります。こうして、この安房地域に7万余の将兵が配置されていたと言われます。未来あるたくさんの若者たちがいわば鉄砲玉として命を落とす寸前だったのであります。

当時は本土決戦が叫ばれ、天皇は東京から長野県埴科郡松代町に移り、そこから作戦指揮をするために、頑強な地下構築物の松代大本営が昼夜兼行の突貫工事につくられていました。安房地域は、いわば天皇が松代大本営に移るまでの時間稼ぎのために、沖縄に続いて第2の捨て石と位置づけられていたのであります。沖縄戦では、非戦闘員の全住民を巻き込んで、4分の1の住民が死傷するという悲惨な戦争が続けられました。3万余の軍人とともに、十数万の沖縄の住民が死の道連れにされました。この悲劇がこの安房で繰り返されたかもしれなかったのであります。

市内各地に残されているさまざまな軍施設跡は、無言のうちに戦争の悲惨さや無意味さを、人ごととしてではなく、身に迫った問題として、切々として私たちに伝えているのではないのでしょうか。そして今、戦後50年を経た現

在、戦争を知らない世代が多数となりました。私たち自身にこの無言のメッセージをとらえ返す理性と感性が必要になっているのではないのでしょうか。

私は、館山市の平和都市宣言の理念に立ったとき、この戦後50年の節目に高校の先生方が調査をして達したこの成果、私たちのこの館山が第2の沖縄として戦場になりかねなかったという歴史の発見は極めて貴重なものがあると思うのであります。教育委員会はこの催しを後援をいたしました、この催しの中で掘り起こしたこの歴史について、市長はどのように評価をされておりますか。また、私はこれらの歴史を今後とも正しく郷土の歴史として伝えていくことが私たちの平和への大切な役割ではないかと思うのであります。研究の成果は房日新聞で連載されましたが、これらを郷土の貴重な歴史として教材とするなど、子供たちに伝えていくことを進めてはどうかと思うのでありますが、いかがお考えになりますか。

次に、中国、フランスの核実験についての市長の所見をお尋ねをいたします。フランスの核実験に対して、国民的な抗議の声が沸き起こっています。フランス政府はさらに第2、第3の核実験を予定しています。核兵器の抑止力によって平和を守るとというのがフランス政府の主張ですが、核兵器に固執するこの抑止力論は既に現実を持たない架空の理論であります。一体フランスはどこの国に核兵器を散らつかせ、抑止力をきかせようというのでありましようか。また、中国はどこに向けて核兵器をもてあそぶというのでありましようか。フランスは、自国の安全を口実に、核兵器によって人類を絶滅の危機のふちに立たせようというのでありましようか。

核抑止力論は、1980年に国連事務総長報告が現存する最も危険な集団的誤謬と指摘したそのものであります。既に世界には、南アメリカ地域やアフリカ地域では、核兵器のない非核地域とする条約が関係各国で締結されております。今こそ全世界的な規模で核兵器によって平和を維持するというこの抑止力論を克服して、核兵器のない世界に進むべきではないのでしょうか。

核拡散防止条約は、アメリカ、ロシア、イギリス、フランス、中国の核保有5カ国の永久的、独占的核兵器の保有を合法化いたしました。この条約は、核保有5カ国の安全のために人類を滅亡の危機に依然として置き続けるとい

うもので、核兵器廃絶の理念に真っ向から対立するものではないでしょうか。

核兵器廃絶は館山市平和都市宣言の基本理念であります。こうした立場に立つとき、フランス、中国の核実験強行は、人類の生存に対する暴挙として厳しく抗議し、糾弾すべきと思うのであります。県内の各市長がフランス大使館や中国大使館に対して抗議の書簡を送る等しておりますが、当然のことであります。庄司市長の所見についてお聞かせをいただきたいと思います。

次に、大きな第2点、市の接待食糧費の支出基準とその公開についてお尋ねをいたします。全国市民オンブズマン大会で公費による接待食糧費の使われ方の乱脈ぶりが明らかにされました。都道府県などの職員が補助金獲得の名目で国の担当職員を接待して、食糧費名目で税金を湯水のように使い、予算獲得を進めるという構図が明らかになりました。官が官を接待するところから、俗に官官接待と言われます。

例えば、昨年3月に大阪府の幹部が銀座の料亭「吉兆」で府政運営上の諸問題についての会議として中央官僚を接待いたしました。その請求書によれば、1人7万円の料理で酒を飲み、1人1万6,400円のお土産を初め、ちゃっかりとたばこ代、電話代まで計上し、一晩で5人の食糧費として何と73万円を支出しているのであります。そもそも食糧費とは、地方自治体が行政を進める上で必要な会議に伴う会食の費用やお茶やお菓子代などのことあります。最高級の料亭で1人7万円もの食事などというのは全く常軌を逸したもので、あきれるばかりであります。しかも、こうした事例は全国各地の自治体で当然のように実施されている実態が次々と明らかになったのでありますから、納税者として我が千葉県はどうなのか、そして館山市はどうなのかと思うのは当然であります。

11日、松戸市は、国、県の担当者との懇親会が昨年度で114回開かれ、800万円が使われたと実態を公表し、官官接待と疑われる行為は今後しないという方針を明らかにいたしました。

このいわゆる官官接待問題について、市の現状はどうでしょうか。市の食糧費の今年度の当初予算総額は1,816万1,000円となりますが、このうち接待食糧費としてはどのくらいが使われているのか、その際の接待食糧費の支

出基準はどのようになっているのか、また、こうした支出の透明性を高めることが必要と思うが、その公開についてどのように考えているのか、お聞かせをいただきたいと思います。

第3点、ビーチ利用事業と漁業補償についてお尋ねをいたします。一浜埋めれば七浜不漁という言葉があります。漁業などの海産資源は環境の変化に非常にデリケートで、すぐに影響を受けるということを言ったものであります。ビーチ利用事業は、北条海岸などの海岸環境整備のために、砂浜を沖合に向かって大規模に拡張する人工ビーチ整備を行うものと聞いています。このため、漁業などの海産資源にかなりの影響を及ぼすことが考えられますが、漁業補償は漁業権補償を含めて一切ないというようにお聞きしていますが、理解できないところであります。漁業補償の問題は漁業権とは本質的に別の問題で、民法上の妨害排除なり損害賠償などの請求権の問題であります。現に漁業に従事している漁民が回復しがたい損害をこうむることが予想される場合には、原因となる工事の差しとめを請求したり、また現に損害が発生した場合は損害賠償を請求したりする権利が民法上の権利として当然漁民にはあります。通常はこれらの補償を事前に行うことが慣習とされているところであり、これがいわゆる漁業補償であります。ビーチ利用事業による漁業への影響は大きいのではないかと思いますのでありますが、この漁民への漁業補償についてどのように考えているのか、お聞かせをください。

第4点は、高齢者住宅改造事業の改善の検討結果についてであります。昨年度から館山市は高齢者等住宅改造の補助制度を実施いたしましたが、私は高齢者住宅改造とは全く名ばかりのもので、実態は対象が極めて限定された寝たきり高齢者だけであることを指摘し、この制度の趣旨や、また国の高齢者住宅整備資金貸付制度の対象者との整合性から考えて、こうした制約は一刻も早く改善すべきと提案してきたところであります。市の答弁では、この補助制度はできたばかりの制度であり、利用状況なども含め、これから検討していくとのことでありました。どのように検討したのであるのでしょうか。一刻も早く改善すべきであります、少なくとも新年度から改善がされるものと思うのでありますが、いかがお考えでありますでしょうか。

第5点、震災時における倒壊家屋からの救出、救命対策についてお尋ねをいたします。阪神大震災では、早朝の大地震で、たくさんの方が倒壊した家屋の下敷きになりました。もちろん自力で脱出した方もありましたが、自力で脱出できずに、救出を待っている方もたくさんありました。

被害現場から殺到する救出依頼を受けた災害対策本部の現場調査班として活動した西宮市のある職員の方は、被害状況調査のために被災地を回りますが、そこそこで、ここに人が生き埋めになっている、だんだん声が小さくなってきた、さっきまで声がしていたのだが、救援の方が来てくれたが、生きている方が先だといってよそに行ってしまった、このような話を――さまざまな人から声をかけられてきたというのでありますが、生き埋めの人がいるのがわかっていながら、重機どころかバール1つなく、連絡をしておきますということしかできなかった。何もできないことに本当に悔しい思いをしながら現場を回ったという述懐を述べられておりました。

こうした体験を踏まえ、この職員の方は、地域の小公園や自治会、町内会の倉庫などにバールや電気のこぎりなどの道具が常備されていたら、住民自身の救出ももっと効果的に行われたと思います。各消防署や消防分団、それに市役所の出先機関などに重機が配備され、日常の訓練が行われていたら、主要道路の渋滞に巻き込まれず、もっと敏速にもっと多くの人命が救えたのではなかったかと述べております。この方の体験を踏まえた指摘は、私たちの震災対策の上で貴重な提言ではないでしょうか。

館山市の震災対策で最も危惧すべきは、埋没谷が館山平野を東西に走っていることが予想されるため、地盤の軟弱な地域が、北条、那古、館山など人口の集中度の高い市の中心部を含め、かなりの地域を占めていることであります。関東大震災では、これらの地域は現在の震度7相当の激しい揺れになったと見られ、激震で家屋の全壊率が9割以上にも及びました。家屋の耐震構造化を促進するなどの措置を急ぎ、この倒壊率を低くするように備えなければならないのはもちろんであります。同時に一定の家屋倒壊は避けられないのではないのでしょうか。したがって、いち早く倒壊家屋から人命を救出することができるよう対策を講じておくことが重要であります。特に、地盤

の弱い地域では、町内会単位や消防団単位などで救出や救命機材を身近に常備しておくことが必要だと思うのであります。救出、救命機材の備蓄の現況と、その管理や訓練をどう進めていこうとしているのか、市の考えをお聞かせいただきたいと思います。

以上、御答弁によりまして再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの神田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の第1点目、平和を考える集い、これについての御質問でございますが、私たちが日々平和に過ごすことの大切さを改めて認識したところでございます。また、平和のとうとさ、戦争の悲惨さを後世に伝えていくことは極めて重要なことと考えております。

2点目、中国、フランスの核実験に関する御質問でございますが、このたびの核実験に対しましては、私も遺憾の意を表するものでございまして、このため、平和を願う館山市民を代表いたしまして、9月11日付をもちまして、館山市議会とともに内閣総理大臣に対しまして、日本政府として中国、フランス両国に核実験の即時中止を求めるよう、要請書を送付したところでございます。

大きな第2、市の接待食糧費の支出基準とその公開についての御質問でございますが、館山市におきましては、必要最小限にして、社会通念上儀礼の範囲内で支出しております。

大きな第3、ビーチ利用事業と漁業補償についての御質問でございますが、海岸環境整備事業につきましては、事業主体でございます千葉県によって、自然条件調査等の現況調査を初め、環境影響予測評価を実施し、基本計画が策定されたところでございます。なお、この事業の実施に当たりましては、漁業の振興策等を含めまして、千葉県及び地元関係者と十分な話し合いをしながら進めていきたいと考えております。

大きな第4、高齢者住宅改造助成事業の改善についての御質問でございますが、高齢者における適用対象者の拡大につきましては、今後の住宅改造に

対するニーズ並びに利用状況等を踏まえまして、引き続き検討してまいりたいと考えております。

大きな第5、震災時における倒壊家屋からの救出、救命対策についての御質問でございますが、今年度、防災資機材としまして機械類、工具類の一部を整備します。また、災害時には、各種重機等を所有しています建設協力会等と連携を密にし、対応を図ってまいりたいと考えております。また、自主防災組織におきます資機材の整備につきましては、コミュニティ事業補助金の拡大を図ったところでございます。今後とも自主防災組織の育成強化と訓練の充実に努めてまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 平和の問題ということで、この平和の集いの中でどういうことが行われていたのかということを私はるるお話をしたんですけども、要するにこの安房が第2の沖縄ということが歴史の調査の中で浮かび上がってきたんだということで、これはやはり郷土の歴史にとって大変意味のあることで、これはぜひ子供たちに伝えていかなきゃならない事柄だと私は思うんですけども、その点についてはどうお考えになりますか。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 一般的には、こういう戦争の悲惨さとか、いわゆる平和のとうとさというのは、やはり社会あるいは学校あるいは家庭の中でそれぞれ語り伝えていくシステムが私は必要だと思っておりますが、おっしゃるとおり、子供につきましては当然伝えていくべきものだという認識を持っております。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 私が言っていることは、一般的な問題というんじゃなくて、館山の郷土の歴史としてこういう歴史があったんだということで、戦争の歴史というのは、これはいろいろと — どんな施設があったのか、いまだにわかんないんです、詳しいことは。というのは、軍事施設というのはみんな軍事機密ですから、また占領軍が入ってくる場合には資料も焼却する

とかということで、なかなか残りにくいんです。それを今回丹念に、いろんな人から聞いたり、あるいは防衛庁の関係資料とか、あるいはアメリカ軍の資料とか、そういうものを全部調べながら、この安房がアメリカ軍から見ても、あるいは日本側から見ても、本土決戦の上では最前線として位置づけられていたんだということを明らかにしたというところに今回の意味があったわけです。ですから、そういうことをやはり非常に大事なこととして、郷土の歴史として伝えなきゃいけないんじゃないかなと思うんです。そういう点でどうかということを聞いているんです。それがわかっていないというならば、今回やったことの半分はわかっていなかったのかなという気がするんですけども、この平和の集いという形で企画した中身がよく理解されていなかったのかな、残念だなという気がするんですけども、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） この「戦後50年・平和を考える集い」に関しては、これは御承知かと思えますけれども、8月15日前に発行した「ルックたてやま」の中で、その人たちの座談会を行い、これは当然市長も出まして、さらにいろいろな市内等にある史跡につきましては写真をふんだんに使いながら市民に知らしめて、平和のとうとさというものを伝えている、こういうようなこともやっているわけでございまして、今後も機会をとらえまして、あらゆる機会の中でそういう作業を市としてもやっていきたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 今回私自身も安房の歴史ということで大変教えられるところが多くあったわけで、実際にこの「ルックたてやま」、この中にあります施設も自分の足で歩きました。赤山の地下要塞、これはやはり大変な施設。今見ましても、こんな巨大な地下ごうをあの戦時中につくった。大した重機もなくつくった。物すごい労力をつぎ込んでつくられたものだなということを——本当にあきれるといえるか、戦争のばかばかしさとか、そういったものをその施設に入っただけでも感じたわけですけども、私はこの赤山の地下ごうは非常に——この地域は館山市の都市公園の区域になっている

わけです。しかも、これは館山市の土地です。あるいは大蔵省の土地になっている。国及び市が所有する、こういう土地で、しかもそこに巨大な軍事施設の跡が残されている。これは館山の歴史を子供たちに伝えていく上で、あるいはこの館山の軍事施設というものの意味を多くの人に知らせていくには大変重要なものではないかなと思うんです。したがって、これを、館山の宮城のこの地域を平和公園という趣旨をテーマにして整備していくというようなことを考えていいんじゃないかなと思うんです。いかがですか。こういう問題について、あの地下ごうなりについてお考えがありますか。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 御承知のように、今も神田議員がおっしゃいましたように、あの土地につきましては、個人の土地とか — この赤山のところはちょっと承知しておりませんが、一般的には個人でございますとか、大蔵省あるいは共有者あるいは社会福祉法人といろいろあるわけですが、そういう用地の関係もございますが、現時点においては考えておりません。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 都市計画課へ行って私調査いたしました。これは3分の2は館山市の土地、3分の1が大蔵省の所管の土地です。あと、一部民有地がありますけれども、基本的には大蔵省の普通財産、そして館山市の土地というのがこの赤山要塞地域の所有の状況ではないかなと思うんですが、確認できませんか。いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 公簿の上でございますが、議員さん御指摘のように、館山市の土地が2万2,000平米程度、大蔵省が9,000平米、私有地が4,000平米、現在の都市計画決定してございます5.6ヘクタール、公簿では3万6,000平米でございますが、主体的に館山市の土地であるということでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君）　ここは宮城都市公園として昭和56年に指定をしているかと思うんですが、この公園の整備計画というのは現在ないように思うんですけれども、いかがですか。そして、この公園について、こういう軍事要塞としての施設が広範に残されている、しかも保存状態がきわめて良好だということを考えれば、そういう施設を生かして、平和をテーマとした公園として整備していくということも非常に重要じゃないかなと思うんですけれども、そのことを含めていかがですか。

◎議長（辻田　実君）　三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君）　宮城公園につきましては、先ほど申し上げましたように、5.6ヘクタール中3.6ヘクタールが現在供用してございます。そういう中で、御指摘の構築物等につきましては、私どもも貴重なものであるというふうに認識してございます。ただ、当時構造物としてどのような形態でつくられたか、そういう資料が全くございません。そういうことで、一般的に公開する場合にはかなりの危険度があるというふうに考えております。そういう意味で、危険防止のために、坑口と申しますか、立ち入りをいたしたいと思っております。ただ、その際にはその前面に、この防空ごうといいますか、このものがこういうことであったというコメントをしていきたいというふうには現在考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田　実君）　20番神田さん。

◎20番（神田守隆君）　先ほど私が質問で触れました松代の大本営、これは巨大な地下ごうで、総延長13キロあると言われていたんですけれども、これは現在は一部は公開されて、そして毎年10万人規模で見学者が訪れる、こういう施設になっているんです。そういう点から見ますと、館山市のこの赤山の地下要塞の保存の状況とか、あるいは全体がどうなっているのか、まず具体的に調査をして、それに対してやっぱり安全とか、それから保全の状況とかも踏まえながら、やはりできる限りこういう施設を住民が見学をできるような施設として整備していったほしいなと思うんですけれども、そういう点では調査をして、安全対策を講じて、場合によってはそういう見学という

ようなことも含めて供していくということを検討できませんか。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 今後研究課題として進めてまいりたいというふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 今地元の高校の先生らによってこういうことが明らかになったわけですが、長野のその大本営の跡というのも実は高校生らが保存運動をしてそういうふうになったということで、毎年10万人規模で見学する施設になっているというふうに聞くわけなんですけれども、こういうものは非常に教育的な施設ということで、教育長の意見、お考えも聞きたいと思うんです。都市公園という公園サイドの見方ということと、教育というサイドから、言ってみれば博物館と同じ機能を持つことが期待できるんじゃないか。10万人といいますとかなりの規模で、館山市の市立博物館が年間見学に来られる方が大体5万人から6万人程度ではないかと思うんです。そうすると、長野のこの10万人というのは大変な数だなということで、それだけ今の戦争にかかわる史跡というものが本当に国民的に非常に大きな関心を持たれるし、そしてそれがそれだけの教育的な機能と役割を十分持っているということを示しているんじゃないかなというふうに思うんですが、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 高橋教育長。

◎教育長（高橋博夫君） 確かに今神田議員さんのお話のありますように、歴史というものは過去の事実によりまして成り立つと思うわけでございます。今回の近代史、特に地方史でございますけれども、その歴史としての重みはあると私は認識しているところでございます。その点につきまして、この近代史指導上、大変にそれは貴重な資料であるということは申し上げましたとおり認識することで、教育内容の素材といたしましては今後大いに研究していかなければならない問題だろうと思うし、また指導者といたしましてそれらを教材化するというときには、大きな生きた資料というように考えるわけでございます。

最後の施設の博物館的な利用ということにつきましては、先ほど建設部長が申しましたように、今後大いにそれを研究をする暁において、それがどのような価値を生み出し、どのように効果が出てくるかということになるのではないかと思うわけで、現段階としては、先ほどの話のように、今後の研究課題として大きく考えていかなきゃならないと思っております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 宮城都市公園というのをひとつ平和公園と、またそれが非常に教育的な役割を持つものということで、そういうことを踏まえて、この公園整備ということで計画を持っていけば、大蔵省の土地も十分無償貸与というようなことも考えられるでしょうし、公園の整備計画というものもつくれるんじゃないかなと思いますので、ぜひ御検討いただきたいなと思います。

それから、次に接待食糧費の問題にいきますが、市長の説明では、館山市では必要最小限、儀礼の範囲内でのものを行っていますということなんですけれども、必要最小限で儀礼の範囲内って、みんなそういうふうに言って7万円使っているわけです、さっきのような。ですから、そこにもうお役人に対する国民的な不信が生まれちゃっているんです、今。それが問題だと思うんです。普通のときならば、必要最小限、儀礼の範囲内と言えば大体わかるけれども、そういうことを言っているながら、そう言っている役人が7万円も一晩で——5人で73万円ですか、それが食糧費だとやられちゃうから、そこに不信が生まれているんです。ですから、それを払拭しようということで考えるならば、具体的にもっとお話ししていただきたいんです。必要最小限というのは幾らのことを言っているのか、基準があるのかないのか、また儀礼の範囲内というのは具体的にはどういうことを言っているのか、そこを具体的に示してもらわないとなかなかわかんない。そしてさらに、こういう支出については公開をしていく。いつでも住民がそれに対してチェックをしても大丈夫ですよ、どうぞ見てください、こういう姿勢を示すということがポイントの1つなんです。そういうことを含めてどうなんですか、御説明いた

きたいと思うんですが。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） ただいま神田議員の質問の中に、1点目としまして、社会通念上儀礼の範囲、これについて具体的にどうなんだというお話なんですけれども、その接待の内容とか、あるいはその費用の額などにつきまして、具体的にここで数値で示すことはちょっと難しいわけでございますけれども、先ほど大阪府の事例とか、あるいは一部の新聞報道等で見られますように、高額で、しかも継続的に接待されている、こういった事実につきましては、当館山市におきましては全くの無縁でございまして、そういったことはない、こういうふうに理解をしているところでございます。

もう一つ、支出基準についてのお話なんですけれども、基準をつくるかどうかということにつきましては、いろいろな考え方があるかと思います。館山市の場合には、予算の算定といいますか、査定といいますか、そういうところで十分チェックをしておるわけでございますので、現段階で基準をつくる必要はない、こういうふうに考えております。

それと、最後に公開の問題でございます。食糧費の公開の問題につきましては、必要に応じましてできる範囲の対応をしてみたい、こういうふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 基準はないそうですから、予算査定でチェックしているということなんです、予算が通っちゃうとあとはチェックがないという、こういう理解をしなければいけないわけです。だから問題なんです。例えば文書広報費で、100何万だったかな、今回食糧費が計上されているんだけれども、それは精査をしてやったんでしょうけれども、具体的なその支出をするときには、どういう基準で支出するかという基準は全くないということですよ。となれば、課長さんの裁量で50万円までは支出できますよというのが基準といえ基準ということになっちゃうんじゃないですか。それは困りますよということだと思っんです。いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） ただいまの御質問なんですけれども、1つの事業を推進をする上におきまして、その事業を円滑に推進していくということで、情報交換という中で、必要に応じまして国とか県とか関係者とそういう機会の場を設けておるわけでございます。そういう中で、先ほど私——繰返し、同じことになるわけなんですけれども、現在の館山市の非常に厳しい財政状況のもとでは、経常経費——もちろんこれは食糧費も含めた経常経費についてはさらに抑制、節減していかなければならないという状況でございますので、そういう予算の適正な執行については職員1人1人に行き渡っておるわけでございますので、神田議員の心配するようなこと、特に市民あるいは議会に対して説明がつかない、そういうことはないわけでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 1人7万円の食糧費を市で出しているとは思いませんよ、本当に。そんなばかなことはあり得ないと思います。しかし、では具体的に——例えば会食ということで、食事をともにすることがあるわけです。その際に、役所内で弁当、昼飯を出すというならば、大体弁当なら1,000円以内ぐらいかな、どんな高くても。フルーツをつけたりなんかしたりするとちょっとかかるかなとか、せいぜいそういう範囲のことだろうと思うんです。松戸市は3,000円と言ったんです。1人当たり3,000円以上の出費をしたのが年間114回ですか、懇親会ということで公表したんです。だから、3,000円というのを何か基準にしているのかな、3,000円という基準が松戸市の基準なのかなというふうに受けとめをしたんですけれども、館山市の場合は、一応食事代というのでは、通常行われるのは1,000円程度だ、それを超えるようなのは常識的な範囲内としてはやっていないんだ、やらないんだ、そういうふうに理解していいですか。1,000円を超えますか。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 松戸市の3,000円という基準が、これが妥当かどうかという判断はいろいろあると思うわけでございまして、今館山市の場

合に 1,000円というお話がございましたが、館山市の場合には、地理的にも、あるいは時間的にも、例えば県の関係者とやる場合にも、かなり時間がかかったり、あるいは地理的に遠いわけでもございまして、そういう特殊な要因もある中で、通常昼食等につきましては、仮に向こうを 8 時半に出ましても、11 時半ごろ着いてくる。その都度 ― 県の周りの市町村と比べましても、そういう食事の機会が多くなるわけでもございます。それも相手によりましてということが ― ちょっと言い方が難しいんですけども、ケース・バイ・ケースの事例もございますので、今言われた 1,000円というのが果たして妥当かどうかということになりますと、そのくらいが妥当なのかなというのは個人的な見解の中で持っております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20 番神田さん。

◎20 番（神田守隆君） この問題は、今議論されている議論の方向は、官が官を接待する、そのことによって予算獲得を円滑に進めるということが目的だとすると、いろいろだ、いろいろとしての犯罪性があるということが議論されているんです。これが犯罪になりますと、やった方、職員の方は逮捕されます。そういう性格の問題ですから、少しぐらひはみ出しちゃったからいいという、そういう問題でなく、刑事上の問題として追及され得る問題だということで、襟を正すということをお一層厳しく受けとめていただきたいと思います。

次に、ビーチ利用事業と漁業補償問題についてということで、第 3 点目に移りますが、市長の答弁ではよくわかんないんですけども、私は漁業補償をどう考えるかという問題なんですけれども、漁業補償そのものについては何かお答えがいただけなかったんですが、漁業補償はしないというふうに聞いていますけれども、そういうことなんですね。また、漁業補償の必要はないというふうにお考えになっているんですね。だとすれば、そのことについての御説明をいただきたいと思うんです。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 今回のビーチ利用につきましては、漁業権には

かわり合いがございませんので、そういう意味では漁業権の補償ということには当たらないという考えでございます。ただ、いろいろ御協力をいただいているところもございまして、同時にこういうビーチ利用促進事業がやはり今後の――漁業以外にもありますけれども、そういう関係者の振興につながるような施策をそれと絡めながら、お互いに話をしながら進めてまいりたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 漁業振興策はとるけれども、漁業補償はしない、こういうことですね、くどういようですけれども。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 漁業補償の定義といえますか、これがどういうものになるかということはお互いの話し合いの中で決まることだと思いますけれども、やはり関係者の意見を十分見きわめながら――見きわめというか、聞きながら、お互いに納得しながら事業を進めてまいりたい、こういうことでございます。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） お互いに納得してということになると、補償問題は当然出ますよね、これ。漁業に影響がない、とりあえず県の影響調査ではそういう結論なんでしょう。しかし、海の中のことというのはある意味ではやってみなきゃわかりませんから、漁獲量が例えば大幅に減ったというような問題が出ないとは言えませんから、そうなれば漁業補償をしなきゃいけないのは当たり前じゃないですか。そういうことを言っているんです。だから、漁民の方からそういう意見が出てくれば、そういう場合には対応しなきゃならないのは当然のことだ。極めて当たり前の民法上の――今の法律のことを言っているんですから、民法の原則を言っているだけなんですから、損害賠償の原理のことを言っているだけなんですから、当然じゃないですか。そういうことを話し合いをしていくという――今の御答弁の中に含まれているということで理解していいんですね。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 影響評価につきましては、10年後を見通して予測調査をやっているわけですが、これは必ずしも — おっしゃるとおり、現段階では影響がないということですが、現実にそれがどうかという問題はまた別の問題であるわけですので。したがって、常に追跡調査をしながらやっていくということですが、ただいまの民法による補償については私どもで否定するものではございません。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） その民法の補償は否定しないということなんですが、問題は、民法上の場合にはいわゆる举证責任の問題をどう考えるかという問題があります。これは相当因果関係を漁民側が立証するのか、被害が出た場合に、あるいは工事施行側が立証するのか、これによって漁民救済の問題というのは決定的に違う、いわば分水嶺になる問題ですから、漁民の立場に立って、举证責任は漁民の方が持つのではない、工事施行側の県の方がそれに対して責任を負うんだ、場合によっては無過失責任というようなことも含めてするんだというような方向での議論はできないんですか。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） いずれにしても、損失補償につきましては、そういうことがあった時点では当然そういう関係者から出てくることですが、その点については、そういう損失を与えるということになれば、補償するのは当然のこと、そういうふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 問題は、損失が出た場合に、その損失 — 例えば漁獲量が減る、それはこの海をいじったからだ。海をいじったことが原因でなったのか、あるいは海洋のいろんなほかの原因でなったのか、原因を特定することは極めて困難なんです。ですから、漁獲量が現実に減ったということがあれば、一応その工事が原因だとみなしましょう、工事の施行側が、そうではなくて、ほかの原因によってこの減少が、漁獲量の減少が起きたんだということを立証しない限り責任を負いましょう、これが举证責任の転換というものです。举证責任は事業者側で持つということの意味なんです。これ

をやるかやらないかによって — 実際には海の中のことというのはわかんないんです。漁民はそのことを心配しているんです。それを市がおっぺして、漁民の立場でその辺を何とかならないかということでおっぺして、その漁民の立場を守っていくということができないのかということなんです。今の御答弁では何かよくわかっていないようですから、改めてほかの場面で御答弁を求めていきたいというふうに思います。

それで、次の問題がありますので、先へ進みます。高齢者住宅の改造の検討結果はもう来年までに期限を据えてやってほしいんですけれども、来年度ということで検討できますか。いつまでも検討というんじゃ困るんで、期限を切ってくださいということなんですが、いかがですか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 今前向きに検討をしているところです。来年度から実施できるかどうかまだ結論は出ておりませんが、前向きに検討しております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 20番神田さん。

◎20番（神田守隆君） 前向きということでもありますから、ぜひ前向きに本当にやっていただきたいなと思って — 時間ですから、震災対策の問題は、ちょっと残しましたが、決算等の質疑もありますので、そういう場面を通じて改めて市の考えをただしていきたいと思いますので、以上で終わります。

◎議長（辻田 実君） 以上で20番議員神田守隆さんの質問を終わります。

続きまして、3番議員三上英男さん。御登壇願います。

（3番議員三上英男君登壇）

◎3番（三上英男君） 質問に先立ちまして、一言述べさせていただきます。

今議会におきまして核実験反対と核兵器の廃絶を求める意見書の提出を見ましたことは、大変意義あることと考えております。私は常々自然環境の保全を訴え続けております立場上、環境破壊の最たるものの核実験を看過することはできません。このような意見書の提出が全国的な意思となり、今後

の核実験計画の撤回につながることを願うものであります。

それでは、質問に入ります。大きな1の工業団地について。私が6月議会で質問しましたことは、この工業団地の実現化には疑問がある。できないものであるならば、自然のまま残した方がよいということでした。これに対し市長の答弁は、平成2年に千葉県に実現化を働きかけ、平成4年に県企業庁が事業化したとありました。そして、実現に努力する旨の答弁でした。しかし、3年経過した今日、具体的に何もやっていないような状況と思われます。最近私が電話で企業庁に問い合わせましたところ、進出企業は現時点ではないということでした。館山市が地域振興の切り札としてあくまでこれに固執するとしたら、時間的損失は大きいと言わざるを得ません。

小さな1の質問であります。市は県企業庁とどのくらいの頻度で協議をされておりますか、お伺いいたします。

先日、9月7日ですが、千葉県はちば新時代5か年計画なるものを発表いたしました。それによりますと、箱物、俗にハード面よりもソフト面へ、開発よりも保護、そのように方向を変えてきております。既に時代が変わってしまったと言わざるを得ません。企業庁はこれから先、企業誘致と工場用地の造成にどれほどの熱意を持って携わってくれることでしょうか、大変疑問に感ずるものであります。

それから、この工業団地の造成につきまして、オーダーメード方式をとっておりますが、これは企業の意向を酌み入れ、使い勝手のよいようにということで、これは十分理解できますが、これは逆に言えば、進出企業がなければ何もやらない、進出企業があるまでは支度もしないということであって、表面的には市民の皆さん方は工業団地の建設はどうなっているかという疑問がさらに増すものと思います。

ここにあります「週刊ダイヤモンド」という本ですが、これに、8月の12日、19日の合併号に工業団地の特集が載っておりますが、全国至るところで企業誘致を行っております。おのおのの条件を示すと同時に、用地の価格まで明示しておるわけであります。また、お勧め品として――品かどうかわかりませんが、お勧めの団地として力を入れているところもあるわけでありま

す。ところが千葉県は、工業団地がたくさんあるので、数カ所のお勧めの工業団地をつくっていった場合不公平になるために、特別売り込みはしないと書いてあります。県企業庁は館山市の工業団地の売り込みに熱意があるのか。余りないものであれば、市の根幹事業から外した方がよいと思うのですが、いかがですか。これは小さな3の質問になってしまいますので、ちょっと前後して申しわけありません。

それから、小さな2の質問ですが、この事業に関連しまして建設する市道8042号線、これの進捗状況についてお尋ねいたします。

次に、大きな2の職員採用についてであります。最近の就職難は1つの社会不安となってしまっております。希望を持って働ける場所がないことは大変不幸なことであります。このようなときに一番人気があるのが公務員であり、今回の合同試験の応募者を見ましても、定員に対して5倍ないし30倍弱の大変な倍率であります。このような難関を切り抜けて、晴れて採用になる方々は優秀であり、その能力を疑う余地は毛頭ありません。しかし、採用人数が余りにも少ないために選考に大変苦労され、だんだん絞り込んでいったときに、市の幹部、議員、その他有力者の縁故関係者に有利になるというようなことはないかどうか、お聞きしたいと思います。

私の先輩で我孫子市議がおりますが、我孫子ではこれを問題として、より選考の透明度を上げるために、面接官1人を民間から登用することにしました。館山市の場合、面接官は何人で、どなたがやっておられますか。また、このままでも市民から疑いがかけられるようなことがないと断言できますか。厳正、公正に選考していることを公表できるでしょうか、お伺いいたします。

それから、小さな2の一般行政職の採用についてであります。市は2年間一般行政職の採用を手控えてきておりますが、来年度も採用をしないつもりでしょうか。必要になったら採用すればいいというのではなく、毎年一、二人の採用はした方が社会全般から見たときに好ましいことと思うが、いかがでしょうか。来年度の動向をお伺いいたします。

大きな3の新リサイクル法についてであります。ごみ行政について、館山市は安房地区においては先進的であり、大変よくやっていると思います。

ただ、一般적으로ごみに対する認識がまだ十分とは言えない、そう感じております。普通、ごみは捨てるものと言っておりますが、これからは、特に新リサイクル法が施行されますと、責任を持って処理するということになるわけです。また、ごみがごみであるのか、資源であるのか、こういうやはり勉強をしていかなきゃいけないと思います。この法律が施行されますと、一層厳しい責任が市民に課せられるということになるわけでありまして。行政として市民にどのように対処していくつもりであるか、お伺いいたします。

また、この新リサイクル法施行いかににかかわらず、行政の指導により、ごみの減量運動は粘り強くやっていかなければならないわけでありまして、一時的に何かの都合で多量にごみの出た場合、自己搬入、自分で車で処理場へ持っていくわけですが、このときに料金が少し高過ぎるんじゃないかという声をしばしば耳にするわけです。現行では30キロ未満までは無料と一般ごみは聞いておりますが、あそこへ搬入するに当たって、30キロというのは、言ってみれば両手で下がる程度のものではありません。搬入はほとんど自動車で行われておるわけでありまして、これを100キロ単位ぐらいに引き上げられないものなのか、御検討をお願いしたいと思います。かつては100キロまでだったというのが、今度処理場が建設されてから30キロ、粗大ごみは50キロということになってしまったようではあります、余りにも実情にそぐわないように思いますが、いかがでしょうか。

以上、私の質問を終わります。御答弁によりましては再度質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 午前の会議はこれにて休憩とし、午後1時再開いたします。

午前11時50分 休憩

午後 1時00分 再開

◎議長（辻田 実君） 午後の出席議員数24名、休憩前に引き続き会議を開きます。

三上さんの質問に対する答弁を願います。

庄司市長。

(市長庄司 厚君登壇)

◎市長(庄司 厚君) 三上議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、工業団地についての御質問でございますが、第1点目の千葉県企業庁との協議経過に関しましては、本年4月以降も引き続き、用地の取得や排水路整備計画に関する地元説明など、事業の進捗等に応じて、必要な都度協議を行っているところでございます。

次に、第2点目の市道8042号線の建設計画に関しましては、工業団地側より用地取得を主に進めておりまして、これとともに工事着手する予定でございます。今後とも地元の協力を得ながら早期完成に努めてまいりたいと考えております。

次に、第3点目の館山市根幹事業実施計画から工業団地事業を外すべきではないかとの御意見でございますが、館山工業団地は館山市にとりまして大変重要な事業であり、外す考えはございません。

次に、大きな第2の第1点目、市職員の採用試験の面接官に民間人を登用してはどうかとの御提案でございますが、館山市におきましては公正かつ厳正に実施しておりますので、試験官の民間登用は考えておりません。

第2点目、一般行政職の採用についてでございますが、職員の採用枠の決定に当たりましては、定員管理の適正化あるいは行政需要等を考慮しながら実施しているところでございます。

次に、大きな第3の新リサイクル法についての第1点目、ごみ行政の対応についての御質問でございますが、新リサイクル法につきましては、政令、省令等の分別基準に適合するよう、市町村が分別収集計画に基づいて回収した容器包装廃棄物を容器包装利用事業者がリサイクルするという趣旨でございます。現在国において政令、省令等を施行に向けて策定しているところでございますので、館山市といたしましては、今後国、県の動向を踏まえ、分別収集計画について検討してまいります。

次に、第2点目、自己搬入による無料範囲の拡大についての御質問でございますが、ごみ排出量に応じた経費の負担はしていただくとの考えでございますので、現在のところ考えておりません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 二、三追加質問をさせていただきます。

県企業庁との協議の頻度、これは今までは用地取得——これは県企業庁との協議じゃなくて、地元との協議ということになると思いますが、県の企業庁では、現時点では進出企業はないということであって、必ずしも館山市を重点としてやっていっているとは思われない。さっきの「週刊ダイヤモンド」にありますように、千葉県にはたくさんの工業団地があるので、これといったところに、特定のところに力を入れるということはないというようなことも書いてあります。

私は企業を誘致することに対して反対ではなく、この厳しいときにこれのみにこだわるということは、市民の皆さんの期待を裏切るような結果になるのではないかとということを懸念するものであります。この間の房日のコラム欄に、企業誘致は地場産業との連携を重視しなければならないというようなことも書いてありました。やはりこの地場産業の関連ということを見直すべきときに来ているのじゃないかと考えております。平成4年から3年間具体的な動きもないという時点、これがさらに延びるということは、この不況に対する政策としては余りにも時間をかけ過ぎるのじゃないかというようなことを思います。もう少し県企業庁と具体的に企業の選別等を進めていただきたいと思います。この点についてお願いいたします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

まず、第1点目のいわゆる誘致活動について、企業庁としては館山工業団地を特に優先するというようなことはないというような、そういう御質問でございますが、今まで館山工業団地のそういう企業誘致に対するPRにつきましては、県内の企業庁が現在事業を進めております他の工業団地と一緒に新聞等で誘致の広告等を出している、そういう状況でございます。御指摘のように、確かに館山工業団地だけ云々というようなことはないわけでございます。ただ、今後館山市といたしましても、県の企業庁だけに誘致活動を

お任せするということではございませんで、館山市としても企業庁と一緒に誘致活動を進めていきたい、このように考えております。

それから、現在経済情勢が非常に厳しいわけでございまして、進出企業はどうなんだという御質問でございますが、私どもといたしましても非常に厳しいというような認識を持っておりますし、また企業庁も同様の認識を持っておるわけでございます。ただ、館山市といたしました場合、就業者の産業別構造等を見ましても、2次産業、特に製造業に従事している、いわゆる働いている方の数が非常に少ない。平成2年の国勢調査の例で申し上げますと、館山市の場合には2次産業は全就労者の21%程度しかないわけでございます。これが県になりますと約29%、国においては約25%ということで、館山の場合に特にその2次産業において少ないという部分が見えるわけでございます。そういう意味で、各産業間のバランスをとるといような考え方の中で、館山市としては2次産業、特に製造業の誘致ということを——これは新たな雇用の創出という一面、それからまた、当然地域の経済の振興という考え方の中でこれからも取り組んでいくべきものではないのかな、このように考えております。

それからいま一つ、地場産業とのかかわりでございますが、企業の選定といたしますか、その中では、できる限り地場産業とのかかわりのある産業というように念頭に置いて考えてまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 工業団地につきましては、これは雇用の関係あるいは地域活性——反対の根拠は薄いものがあります。ただ、私はああいった里山と言われるところを開発してまで工場を誘致するのはいかななものかという観点もあつてのことが多く含まれております。ですので、工業団地の建設に対しては、私も極力そういうことがクリアできるものであればあえて反対はいたしません、それが難しいのであれば、今後また追及させていただきます。

それから、大きな2の職員採用についてであります。厳正、公正なる選考

をしておるというお答えでしたが、これもこうであるというような確たる証拠があったわけではありませんが、私の先輩といいますか、同僚といいますか、もと進歩党で一緒にやっていた者が我孫子の議員に一足先になったわけで、この人が我孫子市議会では最大会派を占めております。そういうことから、今回我孫子ではこの民間登用ということがなされたわけです。市としても、こうであると言い切っても、なおそれにはまだ疑う余地があるというのが一般的な考えじゃないかと思います。

先ほど私が質問した中に、館山の場合はどなたが何人でその面接官を務めておられるかということに対しての御回答がなかったと思いますが、それで事足りるということであると市側はおっしゃると思いますが、やはり市民のそういった疑いを晴らすというような見地からしましたら——私どもはこういうふうな工夫をしておるというようなことがありましたら、お答えいただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 1点目の面接官は何人でという話でございます。面接官につきましては、市長、助役、総務課長、それと私の4名で実施しております。

優秀な人材をとるためにどんな工夫をしているんだという2点目の御質問の話ですけれども、私ども、1人1人に対しまして実は15問以上の質問をいたしまして、将来市の職員として十分やっていける、そういう適格者を——多方面から見まして、それで最後に合議制で採用を決定しております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） この体制でやっていけば、私情の入る余地はないというように言われておると思いますが、かつて——かつてと言うと、どのくらいのことかあいまいとしていますが、市に縁故者がいるかどうかなんていうような調査項目があったとか、そういった趣旨のことが言われておりましたが、やはり絞り込んでいった最終的な段階になりますと、ないよりもあった方がいいというようなことが言われておるんじゃないかと思いますが、そ

ういった点ではどうでしょうか。当事者に縁故者が、市の幹部もしくは有力者に縁故者がいた方が有利になるというようなことは絶対ないということでしょうか、その点お聞かせください。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 過去においてそのような話があったという話について、その辺の真意については私ちょっと――はっきりとしたことをここで述べることはできないんですけれども、私も昨年実際にその任務を仰せつかりまして、やはり館山市の採用に当たっては本当に厳正に、公正に行われているということを、昨年の段階でもそれを新たにしたわけでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） わかりました。これは当然のことだと思いますので、それなりに受けとめますが、さっきの神田議員の言葉をかりて申しわけありませんが、いろんなことで公表できるかできないかということがありますが、もし公表できるとしたら、どの範囲まで公表できますでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 今のお話はその採用に当たっての関係だと思うんですけれども、これについては公文書公開条例という制度がございまして、県の方ではそれに基づいて――これまで公文書公開条例を制定する前は、試験を受けた方の順位とか、そういったのはなかったわけなんですけれども、たまたま一昨年ですか、公文書公開条例が出てから、それに基づきまして必要に応じたことをしているということで、県においてはそういう対応をしておりますけれども、たまたま館山市の場合には公文書公開条例を現在のところ制定してございませんので、その範囲については、明確なことはこの段階では答えることができません。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） わかりました。私もまだ新人ですので、余り強いことを言いますと、ちょっとおしかりを受けるところがあるといけませんので、皆さんの御判断にお任せしまして、このことについては……。

◎議長（辻田 実君） 小幡助役。

◎助役（小幡清之君） この際、御質問ですので、はっきりさせておかなければいけないと思います。縁故者云々ということは全く関係ございません。これははっきり申し上げておきます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） このことにつきましては、一応余り触れたくないところに触れたということで、目的の一部を達成したというふうに私は考えております。

それから、3の新リサイクル法の2になりますが、自己搬入の無料の範囲拡大についてということで、確かにごみの減量等は、これは行政の指導によって強く進めていかなければいけないことと思いますが、たまたま搬入するような事態になったときに、相当高い料金を取られるということがあるわけです。今の料金体系からいきますと当然なことで、いっぱい持っていくと3,000円ないし5,000円取られるというふうなことが普通じゃないかと思いますが、安くしたらどんどんふえて困るから、ある程度高くしておくんだという考えもありますが、やはり持っていくという必要に迫られた状態、これも無視できないと思います。ステーションへ出しちゃえばそれでいいじゃないかと言うかもしれませんが、持っていく、搬入するというその行動に対して、やはりある程度適正な価格、金額ということがあってしかるべきだと思います。30キロを超えたら1,500円、だんだん、だんだん上がって3,000円に上がってしまったというんじゃなくて、ある程度までは1,000円なら1,000円でやるというような、そういった料金体系の改正も考慮していただければと考えております。御意見をお聞かせいただきたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 御質問の趣旨は、直接搬入をするので、ある程度そういう面も考慮というような、そういうふうな御質問かと思いますが、市長答弁にもございましたように、やはりその量に、排出量に应じまして処理料をいただくということから、現在はちょうどいしているわけ

でございます。価格の適正云々というようなこともございましょうが、過去の料金等の設定の中で、現在の料金が一応適正というような判断のもとで努めているわけでございますので、現在のところは変更とか、そういうふうな考えはございません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 3番三上さん。

◎3番（三上英男君） 私がこの自己搬入にこだわるというのは、これからはやっぱりステーションの負担を軽くするということもありますし、余りにも30キロというのは低過ぎるんじゃないかと思うんです。30キロといたら本当に大した量じゃありませんし、それをステーションに頼るということは、またステーションの方の負担を多くするということにもなりますので、私も今後これをいろんな方面で研究しまして、適正な価格というのは——実はこのあれは新しい処理場ができてから急に上がったものだと思います。それまでは100キロまでということでやっておりました。施設ができて、施設の償却やらいろいろあって、お金がかかるから少し料金を上げてもらいたいという含みもあったんじゃないかと思いますし、かまの延命効果をねらってというようなこともあるかと思いますが、余りにも30キロというのは搬入の数量というか、重量としては低過ぎるんじゃないかというような気もいたしますので、もう少し現場に当たってみまして、研究課題といたしたいと思っています。

私の質問を終わります。

◎議長（辻田 実君） 以上で3番議員三上英男さんの質問を終わります。

続いて、5番議員忍足利彦さん。御登壇を願います。

（5番議員忍足利彦君登壇）

◎5番（忍足利彦君） 5番議員忍足利彦でございます。ただいまより通告発表をさせていただきます。

私は、既に通告してございます事項につきまして、市長の考え方をお伺い申し上げます。通告してある諸問題は、いずれも館山市にとっては重要、かつ発展のためにはぜひ急ぎ実施していただきたい事項と存じます。一方、私

ごとにわたりまして恐縮ではありますが、私が今般市議会議員の選挙を通じまして、この問題は地元の皆様方の御要望やら、私の主張いたしました問題でもあります。どうか市長におきましては、当方のこれらの趣旨を十分御理解賜りました上、率直かつ建設的な御答弁を期待して、以下順次質問に入ります。

私の質問は、第1点は、東関東自動車道館山線の全線開通を控え、館山市は新しく都市計画道路をつくる考えはありますか。第2点は、館山市は現在北条地区を中心に下水道整備が行われているが、船形地区にこれを行う考えはないか。第3点、館山湾の総合整備について。第4点、J R那古船形駅周辺の開発並びに九重駅ともどもの無人駅に対する考え。以上4点でございます。

まず、第1点目の質問ですが、新しく都市計画道路をつくる考えはありますかということです。現在、木更津市と川崎市を結ぶ夢のかけ橋と言われている東京湾横断道路が平成9年開通を目前に控え工事が進んでおります。一方、館山から県都千葉へ1時間で行けるようになる東関東自動車道館山線も、全線開通を目指して着々と計画どおり工事が進んでいるところでございます。両工事が完成しました暁には、袋小路の館山に文字どおり大動脈が通じ、より以上に発展することは間違いなことです。しかし、地元のためには、今からこの道路を有効に利用するために受け皿をつくっておかなければなりません。県南第一を誇る船形漁港へダイレクトに乗り入れられる道路を整備し、第1期70億円の大予算で工事が進められております北条海岸のビーチに接続することは絶対に必要なものと存じます。市としましては新しく都市計画道路を整備するお考えはありますか、御答弁を求めるものであります。

第2点目の質問ですが、船形地区にも下水道の整備工事を早急に要望するものであります。船形地区では現在どんどん川、宇田川という2本の河川が館山湾に流入しております。特に、宇田川には地元産業の育成、経済発展、活性化を目的につくられましたふれあい市場がありますが、この周辺で流路が大きく迂回し、落差もないため汚水だまりの状態になり、悪臭は極めてひどく、不衛生で、地元住民はもとより、せっかく訪れてくださいました観光

客からの悪評も極めて大きいものであります。河川、海水の浄化に強力に効力を及ぼす公共下水道の処理施設を早急につくっていただきたいと強く要望するものであります。隣接の那古地区は工事に着手されましたが、船形地区はいかがになっておりますか、お伺い申し上げます。

第3点目の質問ですが、館山湾の整備についてであります。館山湾の整備につきましては、現在ビーチ利用促進モデル事業に基づき、館山市が富山県新湊市、宮崎県宮崎市とともに全国で3カ所指定を受け、国、運輸省の予算で大々的に改良されますことは、館山市を愛する私ともども、全市民にとりましてはまことに喜ばしく、同慶にたえないところでございます。この計画によりまして館山湾の整備が進められることにあわせ、幾つかお伺いいたします。

小さな1は、館山海岸にあります水産高校をもっとアカデミックな場所に移転する。その跡地は館山の顔となる広場として整備し、外来者がたくさん集まる各種イベント等に利用したらいかがか、考えはございませんか。また、海面を利用する水産大学、また各種大学等の誘致を働きかけ、学園都市館山を建設する案もございませんか、お伺い申し上げます。

その小さな2は、フェリー及び外内洋客船の問題であります。リゾート関係はこのところの景気の低迷により一とんざしておりますが、館山市の置かれておる立場から見まして、リゾートは欠くことのできない事項であります。特に、当館山市は三方を海に囲まれており、海洋性リゾートはその必要性が強いところであります。さきに述べました東関東自動車道と並行して海上交通の充実を図り、陸上のみでなく、海上より大勢の人たちの来館を切に望むものであります。また、プレジャーボート、ヨット等を係留する大型のマリーナ施設をつくらなければならないものと存じますが、市長はどのような考えを持っておりますか、所見をお伺い申し上げます。

地元船形地区といたしましては、ただいま申し上げました件につきまして、漁業関係者及び一般住民も大いに関心を持ち、海岸及び水面利用に対し、埋め立て等も含め、極めて協力的でございます。

第4点目の質問ですが、JR那古船形駅周辺の整備開発についてお伺い申

上げます。現在、当那古船形駅周辺の農地は地権者と不動産業者の個々の話し合いで宅地化が進んでおりますが、これでは首尾一貫した土地利用ができません。この地域は新用途地域の中で第1種住宅地域として指定されておる場所であります。現況では虫食い状態の宅地造成が行われております。いつ発生するかわからない地震、火災等の防災面を考慮し、計画的な開発が考えられますが、市当局の御所見をお伺い申し上げます。

また、JR那古船形駅、九重駅の両駅が無人駅となっております。同じ館山市内で館山駅が改築され、立派になることは極めて喜ばしいことですが、観光都市館山を標榜する当市にとりましては、無人駅は好ましいものと思いません。また、美観的に見ても、余り手入れが届いておりません。JRと積極的に話し合いを進めて、一日も早く最良の条件にて使用できるようにしていただきたいと思います。市のお考えはいかがなものですか、お伺い申し上げます。

以上4点にわたり質問いたしました。御答弁によりましては再質問させていただきます。

終わります。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの忍足議員の御質問にお答えいたします。

第1、東関東自動車道館山線の全線開通に合わせまして、新都市計画道路に関する御質問でございますが、館山自動車道の供用開始を踏まえまして、国道127号館山バイパスや国道410号北条バイパスを初めとする外周道路の整備を推進しているところでございます。将来、外周道路と市街地を結ぶ都市計画道路等の整備も必要と考えております。

次に、第2、下水道整備に関する件についての御質問でございますが、生活排水処理施設は海域の汚濁防止の目的で整備しているものでございます。宇田川等への排水処理施設の設置については、今後調査を実施し、検討してまいりたいと考えております。なお、宇田川の滞留、悪臭が発生している部分につきましては、管理者の県南部漁港事務所において調査検討をしている

ところでございます。

第3、館山湾の整備についての御質問でございますが、初めに安房水産高校につきましては、いろいろな御意見があると存じますが、1つには千葉県教育委員会の教育行政上の問題でございまして、館山市といたしましては慎重な対応が必要と考えております。なお、水産大学に関しましての案は現在のところ考えておりません。

次に、海上交通についての問題でございますが、海洋性リゾートタウンの整備を進める上で、多様な交通手段の1つとして必要と考えております。また、マリーナにつきましても、海上交通とともに、現在千葉県が進めております館山港整備構想の中で検討してまいりたいと考えております。

次に、第4、JR那古船形駅周辺の開発整備並びにJR九重駅ともに無人駅の対処についての御質問でございますが、開発整備の関係につきましては、都市計画法の開発許可制度並びに館山市宅地等開発事業に関する指導要綱によりまして、宅地開発の適正指導を行ってまいりたいと考えております。

無人駅の関係につきましては、JRの駅無人化についての基準は、1日の乗降者数が1,000人以下で、かつ1日の収入が20万円以下の場合、無人化すると伺っております。また、駅舎の清掃等につきましては、JRが業者に委託をしているところでございます。館山市といたしましては、これらの基準の引き下げや駅舎の適正な管理などについて、JRに対しまして今後も引き続き要望してまいりたいと考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 5番忍足さん。

◎5番（忍足利彦君） 御答弁ありがとうございました。

ただいまの答弁で、外周道路と市街地を結ぶ都市計画道路の整備が必要と考えることについて賛成の意見を得られましたが、この供用開始により、首都圏からの交通条件は大幅に改善され、観光客の増加が見込まれるものですが、このような波及的効果を的確に受けとめ、地域の活性化を図っていくためにはどうしても新道路が必要です。船形は館山市に入る玄関口です。また、当地には有名な神社、仏閣がたくさんあります。これらは立派な観光資産で

す。これらを生かしながら、127号から船形港、さらにビーチ利用促進モデル事業の北条海岸へ直接乗り入れる道路の整備について、いま一度詳しく、わかる範囲で教えていただきたいと思います。よろしくお願いします。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 議員御指摘の国道127号バイパスから船形方面に直接の幹線道路といたしましては、現在犬掛―館山線があるのみでございますが、この犬掛線も館山バイパスの供用に伴いまして利用度が高くなってございます。このようなことから、市といたしましては、館山バイパスと連絡する県道犬掛―館山線バイパスといたしまして現在千葉県に要望している状況でございます。その結果を踏まえまして、関連する都市計画道路等の調査検討をしてみたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 5番忍足さん。

◎5番（忍足利彦君） 戦後50年も過ぎましたが、当船形地区には――漁港は大変立派に整備され、県南第一を誇るものとなり、まことに喜ばしいことですが、このほかには、当船形地区におきましてはこれといった特別に印象に残る大きな公共施設はつくられておりません。道路も、私どもが子供のころより道幅はいつも相変わらず、中心部ではカーブが多く、国道でありながら大型車のすれ違いもやっとで、JRのガード下は3メートル40の高さで、大型車の進行ができず、まことに不自由しております。ここで全地区区長並びに区民の要望であります大動脈となる新道路の一日も早い実現を強く要望いたしまして、第1点の質問は終わらせていただきます。

なお、11月2日、市長を囲んでの市政懇談会がとり行われる予定でございます。それまでに約2カ月ございます。いまして話が進行いたしましたら、その節は船形住民の前で声を張り上げて、楽しい希望の持てるごあいさつをお願い申し上げます。

次は、第2点目に移らせていただきます。下水道問題ですが、調査及び予算の都合その他で大変時間のかかることは十分了解できます。特に宇田川の方のことでございますが、先般、過ぎた8月の20日でございますか、企画課

長の方へお願いしまして要望書も出してございます。その節にやれるだけやってみますということで、それに基づいてかと思えますけれども、過ぎた9月の8、9、10と3日間にわたりまして大型重機が3台投入されまして、川底のヘドロをブルで押し、河口よりショベルカーでもってすくい上げて、見違えるようにきれいになりました。しかし、この川は川じりが流砂のために干潟状態になりまして、川の底辺よりも水面、海面の方が高いような状態でございます。このままにしておきましたら、年1回の掃除ではとても用が足りるわけないと思います。春、夏、秋、冬と最低4回でもやっていただきたいと思いますが、何回やっても同じ状態だと思います。河口より海の方に向かって導水堤をつくるとか、もしくは川底の改良をして勾配をつけるとか、即下水問題が予算、設計いろいろありましてできないものは、そのようにできるところから手をかけてやっていただきたいと思いますが――根本的な設計変更を希望いたしますが、このようなせめて当座の方を――その他の御意見がありましたら教えていただきたいと思います。お伺い申し上げます。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

宇田川につきましては、議員さんの御質問にもございましたように、非常に勾配がないために構造的に問題があるということで、これは昨年の船形地区にお邪魔した際にも私はお答えを申し上げているわけですが、この件につきましては、管理者でございます県の南部漁港事務所におきまして、臭気対策とあわせまして、平成7年度、8年度の2カ年にわたって調査を行い、その結果によって対応策を講じていく、ということでございます。

それから、その間のいわゆる臭気対策といいますか、いわゆる汚泥が堆積している、その件につきましては、現在は管理者であります千葉県の南部漁港事務所が年3回の清掃を予定をしております。先ほどおっしゃられました9月8日からの作業は、今年度第1回目の作業だというふうに南部漁港事務所の方から伺っております。3回という数が少ないというようなこともあろうかと思いますが、館山市におきましても、過去にも館山市サイドで清掃をしているというようなこともございますので、そういうケースにつきまして

は市の方でも対応をしていきたい、このように考えております。

それから、生活排水の処理施設の件でございますが、今年度、来年度と那古地域に整備をいたします。船形地区につきましても、先ほど市長答弁にございましたように、海域の汚濁防止という観点から、平成9年度以降調査を進めてまいりたい、このように考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 5番忍足さん。

◎5番（忍足利彦君） 平成9年度以降調査ですから、調査から施工設計して、また作業にかかり、完成までというと、ちょっと気の長くなるようなお話でございます。できないものを無理にやれと申し上げましても、無理は無理ですけれども、先ほど申し上げましたように、手近な問題、できるところからやって、少しでも環境よく生活できるように取り計らっていただきたい、これをお願い申し上げます。これは質問ではございませんで、要望でございます。

次に、館山湾の総合開発の問題でございますが、北条海岸は、先ほど来申し上げましたように、ビーチ利用促進モデル事業に基づき、海水浴場を主体に大々的に整備されることはもうわかっております。また、館山港は、災害が生じたときの補給基地と申しますか、そのようなことにも対処して、防災耐震埠頭をつくるという話も聞いております。それにはまた、自衛隊の艦船を横づけするような埠頭をつくって物資の供給その他を考えたら館山は発展するんじゃないか、そのような意見も聞いております。いずれにしても、館山港は館山地区の — 館山の自衛隊の前の港は商業港として発展したらいいと思います。

それにいたしましても、前に生けす — 昔から、明治前から使っております生けすがみんな浮かべてある畜養の基地になっております。また、生けすのえさイワシですか、これは全国でも館山湾が第一でございます。このような問題をクリアしなければ、館山港の改築整備もできないわけでございます。そんなわけで、ひとつ船形の港の方へとこれを動かし、また船形漁港を中心にして、一部その畜養の基地、漁業生産基地として、また一部は先ほど

の質問の中にもありましたように水産学校 ― 昔は水産学校は那古にあったわけでございます。それがその後館山に移ったわけでございます。水産学校か何かを移転しまして、そのような埋め立てその他も考えて、総合的に館山湾を開発したらいいと思いますが、このような件につきましてどんなお考えがあるか、お伺い申し上げます。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 現在館山港整備構想基礎調査というものを行っておりまして、つい先日も行ったわけでございますけれども、これは運輸省、県、市、それから漁業関係者あるいは商工関係者、有識者等で委員会を組織しながら、現在その基礎調査を進めているわけですが、その前提になるのはマリーナとか海上交通の建設ということでございますけれども、同時に館山湾全体のゾーニング等を構想しながら進めているところでございます。委員会の中で具体的に生けすの問題も出ましたし、これからそういうものを踏まえながら、いわゆる関係者の声も聞きながら、館山湾のよりよい構想をつくってまいりたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 5番忍足さん。

◎5番（忍足利彦君） 第4点の質問に移らせていただきます。

駅周辺の開発と言いますけれども、なかなか ― 地権者は個々に持っているものであって、即できるものではございません。しかしながら、私の考えることは、1番の問題に戻りますけれども、ダイレクトに船形の市街地に流入できる大きな道路ができれば、それに基づいて、駅周辺の宅地化も理想的なものができかなと思います。そんなわけで、絡んだような話になりますけれども、ひとつ道路の方を ― くどいように申しわけございませんが、一日も早く実現すれば、自然にこれがクリアできるんじゃないかと思います。

また、駅舎の問題ですが、船形地区公民館が非常に手狭であり、古くなって、コミュニティ活動に支障を来しているわけでございます。できましたら、私の案でございまして、この駅舎の改造等にJR、また国の予算、市の予算等も投入してもらって、駅の改築かたがた立派になれば、無人駅も解消になるんじゃないかと思うんですが、この辺の考えはいかがなものでござ

いましょうか、お伺い申し上げます。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 今の議員さんの御質問は、駅舎と公民館の合築というような御質問かと思えます。安房では富浦が既にできておりますし、和田浦が今工事中ということでございますが、ただ、公民館が手狭だということと、そこに持っていく、その辺は当然公民館サイドとのまた協議等も必要でございますので、一応きょうはお話を伺うということで御理解をいただきたいと思えます。

◎議長（辻田 実君） 5番忍足さん。

◎5番（忍足利彦君） このような公民館と駅と絡んでの質問でまことに申しわけございませんが、いずれも美観的立場で見たり、また利用度から見ても、余り芳しい状態ではございませんもので、両方片づけてもらえば結構なことでございますが、できないものでしたら、1つずつでも大至急に建設的な意見を持って進めていただきたいと思いますので、よろしくお願い申し上げます。

以上をもちまして私の再質問を終わらせていただきます。ありがとうございました。

◎議長（辻田 実君） 以上で5番議員忍足利彦さんの質問を終わります。

続きまして、4番議員小幡一宏さん。御登壇願います。

（4番議員小幡一宏君登壇）

◎4番（小幡一宏君） 既に通告をいたしました5点につきまして、順次お尋ねをいたします。

まず1番目に、総合福祉センター建設についてお伺いをいたします。厚生省の推計によりますと、現在我が国の65歳以上の高齢者は約1,700万人に上り、人口の14%を占め、この高齢者人口は30年後の2025年には25%に達し、国民の4人に1人が高齢者になると言われております。一方、我が館山市の場合は、65歳以上の高齢者は現在21.9%になり、5年後の2000年には実に25%になるとの予測も聞かれます。本格的な超高齢者社会の到来を間近に控え、寝たきりや痴呆症などの高齢者介護の問題が放置できない社会問題になりつ

つあると言われております。

政府はこのたび、従来の在宅介護中心主義に加え、公的介護保険導入構想を発表したことは既に皆様も御存じのことと思います。この公的介護保険に対する国民の反響は大きく、読売新聞社の全国世論調査によれば、国民の約7割が賛成し、導入された場合には8割以上の人が何らかの保険料を負担してもよいと考えているそうです。この結果は、とりまなおさず、国民意識が親族介護から公的介護へ移りつつあることを明白に物語っていることと思います。つまり、国民が在宅介護の限界に気づき、自宅では暮らせないときが来ることを見通したことで、老いの最後の受け皿として、高齢者施設の質的、量的な充実が急務となってまいりました。

このような背景の中で、館山市におかれましては、長年の懸案でございました総合福祉センターの建設に向け、平成6年度に地域福祉センター基本調査を実施なされたと伺いました。このことはまことに時を得た快挙であり、市当局の福祉政策に対する熱意のあらわれと、心から敬意を表するものでございます。この施設の一日も早い完成は市民のひとしく待ち望むところであり、市長の御推奨なさいます「温かい心のかよう健康福祉都市づくり」に一步一步近づくものとする次第であります。

そこで、次の2点についてお尋ねをいたします。1つ、地域福祉センター基本調査の結果はどのようなものなのでしょうか。また、この調査結果は私も議員にもいただけないものなのでしょうか。

2番目といたしまして、この調査結果を受け、今後の具体的な対応をお聞かせください。市長の御所見をお伺いいたします。

2番目、ウエルネスリゾートパーク計画についてお尋ねいたします。本計画は、海洋性リゾートタウン基本構想の基本理念であるウエルネスファミリーリゾートの中核拠点の整備と位置づけられ、館山市運動公園を中心に、160ヘクタールに及ぶ林間部を通年的な集客性のあるリゾート地として開発し、さまざまな機能に合わせた施設を設置するといった壮大な計画であり、館山市活性化の切り札として、一日も早い事業化が待たれるものであります。市当局は用地の先行取得を積極的に推進なされ、その取得率は早くも50%に達

したと伺っております。また、このたびは館山市複合リゾートカントリー整備計画調査書を作成され、本計画の実現に向けての具体的な計画内容の検討に着手されましたことは評価に値するものと思いますが、当該計画には予算面、工程面についてはいずれも触れられておらず、具体的事業に着工するまでにはなおかなりの時間を要するものと推察する次第であります。

一方、当市の目指す海洋性リゾートタウンのまちづくりに係る主要プロジェクトは、市長を初め関係各位の御尽力により、着々と完成に向けて進捗していますことは御同慶の至りに存ずるものでございます。しかし、その中において、本計画を核とするウエルネスファミリーリゾートのおくれが目立ち、関係施設との整合性を欠き、海洋性リゾートタウン構想の推進を阻むものであることは周知のとおりであります。この対応についていかがお考えなのでしょう、お尋ねいたします。50%を取得済みの用地の中で部分的に具体的事業に着工できないのでしょうか、市長の御所見をお伺いいたします。

次に、蟹田川護岸改修工事についてお尋ねいたします。当該河川は、館山市根幹事業実施計画に予算計上をされている蟹田川とは異なり、市建設課においては、普通河川蟹田川、水源は館山市笠名と特定しております。つまり、館山自動車学校の裏側より県道南安房公園線の鏡橋をくぐり、旧ワールド商事西岬寄りを流れる河川でございます。当該河川は戦時中の洲崎海軍航空隊の敷地内にあり、航空隊建設に当たって、川岸の高所を削り、低所を埋めたために川岸全体が高くなり、雨が降ると崩れやすくなり、過去に災害復旧工事をお願いしたこともございます。今後も崩落の起こる部分は各所に見られます。戦前と比較すると、昔の道路や橋及び川の渡り場等の位置、状況がすっかり変えられ、地元区民の手により修復不可能な広い川幅や高さとなっております。特に、県道南安房公園線の鏡橋に隣接する地点は、終戦間際、米軍機の爆撃により、両岸の一部が粉碎、飛散したまま本日まで放置されておりますことに対し、地元区民より一刻も早く復旧、改修するようにとの要望が高まっております。今後の対応について市長の御所見をお伺いする次第でございます。

次、4番目の質問に移ります。用途地域の指定見直しについてでございます

す。昭和44年、館山市は新都市計画法の適用を受け、市内各地に用途地域を指定され、合理的な土地利用を前提とした都市機能の整備を通し、高度経済成長時代に即応したまちづくりに着手されたことと理解をしております。このたび私が取り上げましたことは、宮城区地先より笠名区地先にわたり準工業地域の指定を受けた当該地域の今後について、市はいかなるお考えをお持ちなのかということであります。

つまり、当該地域の現況を申し上げますと、事業所数も一時期の面影はなく少なくなり、住宅地化が進行しております。一方において、館山市におかれましては、県の御指導のもと、新企業誘致による雇用機会の増大と人口の定住化を図るためと位置づけられた工業団地計画を推進されておりますが、当該計画も実施段階を迎えるに当たり、今後の地域経済情勢を見た場合、現在指定済みの準工業地域約52ヘクタールに加え、新工業団地分70ヘクタール、合計122ヘクタールの工業用地を必要とするのは甚だ疑問に思うところであります。私はこの際、当地域に隣接する海上自衛隊館山基地との関係等を考慮して、宮城、笠名地区に指定されている準工業地域の指定を解除し、既存業者に対する配慮を残しながらも住居系の用途地域に変更し、居住環境の改善を図るべきと考えますが、市長の御所見をお伺いするものでございます。

次に、5番目、平和記念公園の設置についてお伺いいたします。ことしは終戦より50年という節目の年に当たり、全国各地で戦争放棄、核廃絶等の記念行事が催され、当市館山におきましても、市民団体による戦争資料の展示会、また市当局からは広報紙の特集版として「館山にとっての戦後50年」が発行され、かつての軍都館山の姿を市民の前に披瀝し、ややもすれば忘れがちな私たちの記憶を呼び起こし、また若い世代へ戦争の悲惨さを伝え、市民一同をして反戦の誓いを再確認すると同時に、平和の思いを新たにすることと存じます。戦跡を保存し、歴史の生き証人として後世に伝え、平和の礎とすることも重要なことではございますが、かつての軍都館山、重要施設のあった館山海軍航空隊及び洲崎海軍航空隊を陰で支えた地域及び地域住民の御苦勞に対するねぎらいの心も忘れてはならない重要なことと存ずる次第でございます。

私は、この記念すべきときに当たり、旧洲崎海軍航空隊跡地に場所を求め、恒久平和を願う平和都市宣言のシンボルとして、また地域住民に対する福祉政策の一環としての平和記念公園を建設されてはいかがとありますが、いかがお考えでありましょうか。日ごろより平和行政に深い御理解を示される市長の御所見をお伺いするものでございます。

以上、御答弁によりまして再質問をお願いいたします。

終わります。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの小幡議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1、総合福祉センター建設についての御質問でございますが、福祉活動の拠点でございます地域福祉センターの性格、機能、位置づけ等の基本調査を平成6年度コンサルタントに委託し、調査結果の報告を受けたところでございます。この調査結果を踏まえまして、社会福祉協議会の中心的活動の場として、あるいは各支部活動の調整機能を持たせた拠点としまして、市民センターの有効活用を図ってまいりたいと考えております。

次に、大きな第2、ウエルネスリゾートパーク計画についての御質問でございますが、調査概要につきましては、ウエルネスを基本理念とし、アミューズメントゾーン、センターゾーン、いこいとやすらぎ及びスポーツの各ゾーンより構成されておまして、リゾートパーク計画の基本構想を策定したものでございます。具体的事業の着工につきましては、スポーツゾーンの拡充整備を千葉県にお願いしているところでございます。また、民間企業のアミューズメントゾーンへの参画を誘導してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、蟹田川護岸改修工事についての御質問でございますが、現在宮城地内の整備を継続的に進めております。笠名地内の改修につきましては、この宮城地内整備の完了後、逐次検討してまいりたいと考えております。

次に、大きな第4、用途地域指定の見直しについての御質問でございますが、館山自動車道の開通など諸条件の変化に応じまして、長期的に見て、用

途地域について検討が必要になるのではないかと考えております。

次に、大きな第5、平和記念公園の建設について御質問でございますが、公園につきましては、自然公園法による自然公園、都市公園法による都市公園、児童福祉法によります児童遊園等がございまして、都市公園の建設につきましては、適正な配置を考慮しながら整備を図っております。御指摘の地域につきましては、現在のところ具体的な整備計画は考えておりません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 4番小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） では、総合福祉センターの問題について、再質問といたしますか、もう少しお考えをお伺いいたします。

正直言いまして、答申の内容が私どもが期待していたものと多少違うことにつきまして、若干がっかりした。敬老の日も間近に控えまして、実はよい御答弁を期待しておったんですが、調査の結果は結果として尊重せざるを得ない、このように考えております。

私はこの質問をするに際しまして、市の福祉行政というものに関し、自分なりに調査し、勉強もしてみたんですが、館山市の福祉行政は他市町村と比べますとかなり進んでおります。特に、ソフト面で非常に高いレベルのものがあるというふうに私は認めますが、こういったことは今までのこのいわゆる建設問題の議会の中ですべて織り込み済みのことでして、すべての既存施設の上に上積み論としてこの福祉センターの建設工事というものがあったと思うんです。要するに、私どもが目指していたものはワンランク上の施設をつくるんだ、こういうことで先輩議員、何人かの方からずっと質問を続けてきょうまできていたわけでして、答申の内容をすべて伺ったわけではございませんが、何か時計の針が後戻りした議論というようなことで、非常に残念でなりません。

さらにつけ加えますと、今まで私どもがお願いしていたものは、この館山市だけが、我々が思いつきで話し出したことじゃなくて、これは国の施策として、各市町村において、特に県下の市ではほとんどが既にもうでき上がっている、このように私は認識する次第でございまして、とにかくそういった

ことを踏まえて、今までの議論は、要するに今までの施設の上にもう一つその型をつくり、それに館山市の心を入れていく、そういったことじゃなかったかと思うんです。

それと、さらにもう一点、情勢の変化ということがございます。ただいま私が申しあげました介護保険については、これはまだまだ不透明な部分がございますして、私自身、新聞の受け売りでしかございません。しかし、世論調査による国民の意識の変化、こういうものはやはり行政サイドとしても特に気をつけていかなくちゃいけないことではないかと思うんです。

それともう一つ、あわせて問題になっていますのは、先ごろの神戸の震災におきまして、やはりこの高齢者の問題が大変大きな問題になり、これはまだ後を引きずっている、このように伺っております。

そんなことで、再度市長さんの御意見をお伺いしたいんでございますが、いかがでございましょうか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） まずはこの地域福祉センターの性格といたしますか、それをまず御理解をいただきたいと思いますけれども、ここで言われております地域福祉センター、これは地域住民、ボランティア団体、社会福祉施設等の民間福祉活動が社会福祉協議会を中心として活動する拠点であるという施設でございます。

そういったことで、今回のその調査結果を踏まえまして、館山市としてどうするんだという一応結論を出したわけでございます。その内容を先ほどの市長の答弁よりも再度また細かく触れますと、館山市の場合には福祉施設——いわゆる現在既存の老人福祉センターあるいは老人ホーム、保健センター、精薄施設等々、早くから設置をされているわけでございます。この施設は利用者の身近なところで機能しているということから、この地域福祉センターの議論を踏まえる中でこういった点を考慮して、いわゆる一極集中型の福祉センターというとらえ方はできないんじゃないか、現状からそういった結論があったわけです。したがって、研修室あるいは集会室、それから各種事務室等を設備した、ボランティアセンターとしての機能を明確にした

施設でいいのではないかという結論であったわけです。そういったことで、先ほど市長からお答えしましたとおり、今社会福祉協議会が活動の拠点として使っております市民センターをより有効に活用していこうということでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 4 番小幡さん。

◎4 番（小幡一宏君） その市民センターの有効活用というお話でございますが、この問題のかつて神田議員が取り上げていたんですが、別な角度からで — といいますのは、要するに市の福祉事務所と福祉協議会の事務所の一元化、こういうことも — とにかく市民の立場を考え、一本にすべきでないか、こういった質問も出たと思います。当時民生部長さんは、今後福祉協議会がさらに事業の拡大を図っていく中で、仮称だけれども、地域福祉センターの設置が望まれているわけです。こういったことから、今後どうすべきであるかということを調査研究してまいりたいと思います。この調査研究が非常に言葉のあやがあるところなんですけれども、しかしこれからとにかく推察するところは、あくまでもこういったものをつくるんだというような御答弁に受け取りますが、いかがでございますか。

◎議長（辻田 実君） 渡辺市民福祉部長。

◎市民福祉部長（渡辺富雄君） 新しくつくるかつくらないか、両方の視点から実はとらえて調査を委託し、そして検討をしてまいりました。その結論が、今せっかくあるあの市民センターをこれからいかに活用していくか、そういった視点に方向を変えたわけでございます。そういったことで、御指摘の社会福祉協議会と行政サイドとの連携、これはもう密にしてこれからやっていかなくちゃいけない。ましてや、ゴールドプラン — いわゆる老人保健福祉計画、この計画に基づいて、さらなる業務の拡大あるいは施設の拡充、そういったことを中長期的に検討してまいりたいというふうに考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 4 番小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） もう少しこの市民センターのことについてお伺いしますと、そうしますと、この市民センターにつくるというものは事務所だけなんですか。

とにかく、私冒頭触れましたように、要するに住民の意識といいますか、家族による介護というものがある程度限界にきまして、それに対応していかなくちゃいけないというようなことで、在宅を基本としながらも、公的保健というものがここに出てきたわけですし、今後こういった老人福祉のいわゆる利用する側の選択肢を広げるといった意味でも、幅広いそういった施設の拡充というものが必要じゃないかと思うんです。再三申し上げましたように、私どもが今まで議論してきたことは――市民センターのことももう既に出ておったわけです。何回も申しますように、さらにその上のものをつくるんだ。わかりやすい言葉で言うと、21世紀対策とでも言うんでしょうか、そういったことで議論をしてきたというふうに私どもは理解しているわけでございます。しかし、そういった答申の結果というものはそれなりに受けとめなくてはいけないんですが――先の問題もありますので、私はこの問題はこの辺にしておきますが、以降、同僚議員、また市民の声等も十分にひとつお聞きいただきまして、将来必ずこういうものをつくるんだというような理想だけはひとつ続けて持って行っていただきたいと思います。

続きまして、ウェルネスの件でございますけれども、ただいま市長さんの御答弁で、スポーツゾーンを中心に、県の費用で早急にやられるということなんですが、私は先日も申し上げましたように、要するに全体計画の中からこのリゾート関係が立ちおくらせております。そんなことで、一日でも早くとにかく――造成工事でもいいじゃないですか。着工することがやはり市民に対する1つの行政の責任といいますか、そういったものだと思いますので、その点をぜひひとつお願いいたします。

それで、具体的にお伺いしますけれども、そのスポーツゾーンにかかわる着工等については、見通し等はいかがでございましょうか。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） お話の中で、県によって行うというようなお話

がございましたけれども、正確には県に働きかけているということでございます。今実際には25ヘクタールの運動公園が供用されているわけで、全協でもお話ししましたように、その倍のスケールを持ってやっていただきたいということでもって、安房郡市の市町村長の判等もいただきまして陳情しながら、館山市としてはそれを働きかけているという状況でございますが、今の状況といたしましては、新しい県の5カ年計画の中で、なるべく早く県として始動してもらいたい。早く始めて——初めは調査から始まるわけでございますけれども、そういうものを始めてもらいたいということを今積極的に各方面から働きかけているというような状況でございまして、ぜひとも頑張りたい、こういうふうに考えております。

◎議長（辻田 実君） 4番小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） 今の件でもう少しお話をお伺いしたいんですが、先般いただきましたあの計画書の中のスポーツゾーンを拝見しますと、現在の運動公園に隣接しまして——あそこに絵がかかれていますんですが、全体的な絵の中では、非常に常識的というか、実現可能なものが並んでいる。主なものといいますと、室内運動場と、あと多目的グラウンド、あと合宿施設ですか。拝見しましたところ、そんなに予算的にも高額なものを必要とするゾーンではないというふうに見ていますが、これはすべてそうしますと、今のをもう一遍確認しますと、県の費用でやるんじゃないんですか。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 事業主体としては県にお願いをしたい。しかしながら、館山市が全然お金を出さないということではございませんで、現在の館山運動公園をつくりましたときにも公共が2割負担、それから県単の部分が4割ということでもって、平均3分の1程度は出しているわけでございます。事業主体はあくまでも県にお願いをしたい、そういう中で進めてまいりたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 4番小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） わかりました。とにかく一日でも早く具体的な事業に移られることを切にお願いいたします。

続きまして、蟹田川護岸改修工事について少しお伺いします。ただいま市長さんの御答弁によりますと、宮城が終わったらというようなふうに伺いましたが、宮城は大体いつごろまでかかるのか。

私はここで1点だけ特に申し上げますと、南安房公園線 ― 要するに鏡橋の爆撃跡の問題なんです、これは県道沿いにございまして、非常に交通量の多いところなんです。しかも、観光客等の往来も当然多いというふうに予想しなくちゃなりません、そんな中であそこを通りますと ― 町並みの景観といいですか、環境といいですか、そんな意味からも、早急にひとつここだけは着手していただきたいと思います。していただきたいというよりは、むしろ市の方で早急にやるべきだ。これも戦後50年ということではないのでしょうか。

それともう一点、あの中に橋が落ちているところがございます。これは戦争とは関係なく、台風か何かで落ちたというようなことなんです、これが落ちたままになっておるんですが、市の計画によりますと、青柳一大賀線がこの辺に何か入ってくるというようなことでございます。ですから、その青柳一大賀線がこの笠名地区に来るのは大体いつごろのことなのか、その点をちょっとお伺いいたします。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 笠名の地区の改良の年度でございますが、これは現在県の補助を仰いで工事を実施しておりますので、現在のところはもう5年間を予定してございます。ただ、これは県の予算の配分もございまして、必ずそうだということは言い切れない面がございます。

それと、もう一点の青柳一大賀線の都市計画道路の関係でございまして、現在国道410号のバイパスから1期、2期ということで工事を進めております。これが完了するのは平成12年を目途にしてございます。そういう面から、まだ笠名方面に向かうのには長期のスパンが必要であろうというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 4番小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） 今おおむね了解したわけですが、1点だけ。県道に面した鏡橋に隣接する地域、これの早急なる工事、この点はいかがでございましょうか。この点ひとつお願いいたします。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 議員御指摘の鏡橋の前後につきましてですが、これから部分的な危険箇所等につきましては、現地を把握いたしまして、計画的に整備を進めてまいりたいというふうに考えております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 4番小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） 次に、用途地域の件についてちょっとお伺いいたします。

この用途地域の見直しということは、これは住民の総意とか、やはり地域の方の意見ということが基本だというふうに解釈しておりまして、ただいまここで申し上げますのは私個人の意見でございます。しかし、私が今回ここに取り上げましたのは、やはり戦後50年というスパンでこの地区を見た場合に、御案内のように海軍洲崎航空隊の跡地であったり、館山の自衛隊に隣接していたり、そういった過去を引きずるといいますか、好むと好まざるとにかかわらず、この人たちは、また土地はその時代の波に翻弄されていた、こういうところでございまして、工業団地の受け皿とするのであれば、もう少しこの辺の土地といいますか、環境というんですか、フリーにしたら、こんなことが私の主張の根底でございます。

ただ、工業団地ということは工業地帯ということなので、非常に市民生活に密着していることでございますから、そういった概念的なことでは済まされないんでございますが、それにつきまして、工業団地との関係について少しお伺いします。といいますのは、地元業者といいますか、地元の既存業者——この地区以外の業者も含めてなんですが、今度の新工業団地に希望すれば入れるのか、また県外の新規事業者が——工業団地でなくて、この笠名、宮城地区を準工業地帯に指定した場合にはこれを受け入れるのか、その辺をちょっとお伺いいたします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） お答えをいたします。

館山工業団地につきましては、先ほどもお答え申し上げたんですが、新たな雇用の創出と、それから地域振興を図るという観点から、基本的には企業誘致ということでございます。したがって、現在のところでは地元企業については考えておりません。

なお、地元企業につきましても、現実的に住工混在というような中で操業されている、企業活動されているという方もおいでになるわけでございますが、その辺につきましては、商工会議所に工業部会という、そういう製造業の皆さんの集まりがあるわけでございますが、その中でそういう — いわゆる他の場所に移転するというような意向等につきましても情報交換を行っております。そういうことで地元企業については今後対応してまいりたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 4番小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） わかりました。用途地域の問題は非常に難しい問題といえますか、先ほど申し上げましたように、あくまでもやはり地域住民の意思というものが優先されるというふうに解釈しておりますので、したがって、私の個人的な意見を述べて、地元住民の考えを問う、一石を投じた、こんなことでこの問題は終わらせていただきます。

最後に、平和公園の件でございますが、今市の方ではお考えがないというようなことでございましたが、私が今参考までに考えていることは、海員学校の裏の方に大蔵省の国有地である天神山というものがございます。これにつきまして、地元有志の間に以前から — 市が早いうちにこれを払い下げ、責任を持って管理して、しかるべき施設に有効活用をしてはどうか、こういう意見が前から地元にあるわけでございます。それと、ここは先ほどちょっとお伺いしました大賀一笠名線の終点になりまして、将来は交通の要衝といえますか、当然住民の入り込み等も多くなり、1つの住宅地となると思います。そんな中のちょっとした丘陵でして、そんなことも考えて、この開発を、

この50年という節目のとき、戦跡の保存、そういったこととあわせてお考えになったらいかがかなと思ってお伺いしたいわけですが、その点どうでしょうか、もう一度ひとつお伺いしますが。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 天神山の公園化ということでございますが、先ほど議員よりもありましたように、笠名区より事実要望が出てきてございます。そういう中で、公園といいますのはやはり遊ぶ広場が主体ということで、この天神山につきましては標高が約25メートル程度ございまして、児童公園だとか、あるいはその他一般の公園に供するような地形じゃない。これを公園にするためには山を取ってしまわなくちゃいけないような状況になりますので、したがって大造成が必要であるということで、地元でおっしゃっておりますシンボリックなものは考えられなくなっちゃうというようなものも一面ございます。したがって、先ほど市長から申し上げましたように、現時点ではこの辺の公園については計画してございません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 4番小幡さん。

◎4番（小幡一宏君） 大体、おおむね御答弁でわかりましたけれども、ただいまの山を取る、必ずしもそれが公園ということでもないと思ひまして、最近とはにかくいわゆる市民のそういったものに対する考え方は非常に多様性がありますので、余りそういった固定した概念にこだわらなくて、しかしあそこはやはり何らかの——今、戦後50年ということを声高に叫ぶのであれば、私もさっき申し上げましたように、戦跡の保存とあわせて、何か市としてそこに記念すべきものを確保したらどうか、こういうようなことでございます。

終わります。どうもありがとうございました。

◎議長（辻田 実君） 以上で4番議員小幡一宏さんの質問を終わります。

暫時休憩をいたします。

午後2時37分 休憩

午後3時01分 再開

◎議長（辻田 実君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

14番議員永井龍平さん。御登壇願います。

（14番議員永井龍平君登壇）

◎14番（永井龍平君） 既に通告いたしました3点について御質問をいたします。

まず第1、容器包装リサイクル法の対応と今後のごみ問題について質問をいたします。このごみ問題につきましては、既に何度か質問いたしておりますが、いまだ市民の方の中にはごみ減量に対する関心、意識が薄いようでございます。ある新聞の投稿欄にこれを端的にあらわす記事が載っておりました。それは、ある婦人が娘の出産準備品を買いに行き、おむつ選びのときに布おむつか、紙おむつにしようかと迷って決めかねていると、若い女性の店員が、お客様、紙おむつの方が絶対に便利です。洗う必要もないし、くるくるまとめてばいと捨てられます。それに衛生的ですし、お母さんの手間も省けて簡単ですからと勧められましたが、この婦人は日ごろからごみと環境問題に関心を持っておりましたので、結局布おむつを買ったそうでございます。この例が示すように、まだまだ使い捨て、便利至上主義の方が多くいるようでございます。あえて取り上げた次第でございます。

さて、このままごみを出し続ければ日本列島はごみに埋もれてしまう、私たちの消費生活にはこんな危機感が常につきまっております。そんな中、厚生省は先ごろ、1992年度の家庭や事業所から出されましたごみの実態を発表いたしました。それによりますと、ごみの総量は東京ドーム135杯分に当たる5,020万トンもの量になり、総量としては前年より1.1%減り、83年以来9年ぶりに減少。そして、リサイクルされたごみの量は前年よりも24万トンも増加して、過去最高のリサイクル率になりました。といっても、ごみ全体に占める割合では前年よりわずか0.5ポイントの上昇で、3.9%の低いレベルにとどまっており、国民1人が1日に出すごみの量も1,104グラムと、14グラム減にすぎないというのが現状であるようでございます。この数字は、リサイクル社会構築への軌道に乗ったと言うには余りにもほど遠い数値でございます。リサイクル対策が進んだというよりは、長引く不況による景気の

後退が主な要因のようでございます。

全国各市町村では、ごみを集め、焼却し、破碎、資源化などの中間処理を施し、その結果、92年度で埋められたごみは 733万トン、前年より 130万トンも減量できたということではありますが、当館山市でも、ごみ処理、リサイクルも行政と市民が一体となって地道に、また着実に努力をいたしていると思いますが、しかし問題は、ごみ処理（し尿を含む）に各市町村で費やした経費が前年を 2,700億円近く上回り、約2兆 2,700億円になり、2兆円の大打に乘ってしまったという事実であります。これを国民1人あたりに換算いたしますと、約1万 5,000円もかかり、前年よりも約 2,000円もごみ処理代が高くなったというのであります。ごみにかかる費用は税金で賄われていることを考えれば、市民1人1人がいかにごみを出さないかが重要なポイントであることを強く訴えるものであります。このごみの費用が年々かさみ、財政の逼迫を余儀なくされているのは当市も例外ではないと考えます。

国では、さきの通常国会で容器包装に係る分別収集及び再商品化の促進等に関する法律が制定されました。この法律の略称は容器包装リサイクル法と言われ、家庭などから出される一般廃棄物がますます増大し、再生資源の利用が思うように進んでいない深刻な現状を打開する突破口としてできた法律であります。具体的には、容器包装ごみの再商品化計画、市町村の分別収集計画、事業者の義務、事業者にかわってのリサイクル業務を代行する公益法人に関する規定などを定め、適正な措置を講じようとするものであります。この法律のスムーズな運用が図られれば、容器包装ごみの減量、再資源化は大きく前進が期待されます。全国の各市町村では、この法律を踏まえ、このごみ問題について真剣に悩み、考えて、さまざまな減量リサイクル作戦を展開しつつあります。

当市も昨年度に最終処分場のかさ上げを施して処分場の延命策をいたしました。次の処分場の確保はどうか、また今後の具体的な対策はどのように考えておられるのか、次の点をお伺いをいたします。

まず第1に、現状のごみの実態と、最終処分場の見通しとその確保はいかがでございますか。第2に、容器包装リサイクル法についての対応（施行準

備期間まで)はどのように進めてまいりますか。第3に、ごみ問題について市民の意識調査を実施したらどうでございますか。第4に、今後のごみの減量とリサイクル等の具体的な対策をどのように考えておりますか、お尋ねをいたします。

次に、今後の観光とその関連産業に対する対応についてお伺いをいたします。ことしの夏は、昨年の猛暑を上回る酷暑という言葉が使われるほどの気象条件と、東関東自動車道館山線が木更津まで延伸され、首都圏が時間的に大幅に短縮されました。館山市にとっては夏の海水浴を中心とした夏季観光関連産業に明るい条件が整ってまいりましたが、どうも状況が変化してきたようでございます。

私の調査によりますと、運輸関係の東京湾フェリーとJRにつきましては10%の減少、宿泊業では、一、二カ月前からの計画的な予約ではなく、思いつきのような直近型の予約傾向のために、7月は芳しくなく、8月に入ってから猛暑も影響してか、一部を除いては前年比95%の入込み状況であったということです。その中で、会社契約の宿泊施設は、やはり不況の影響を受けて悪かったようでございます。海の家業者も、不況のせいか家族連れが減り、浜辺にシートを敷き、安く楽しみたいという十八、九歳の若者の姿が目立ち、車の中で着がえて、飲み物も持ち込み、市の施設のシャワーを利用するくらいで、お金を落としてくれないと話しておりました。お土産屋さんに至っては全くの不振で、必要以外のものは求めないそうです。

悪い話ばかりではなく、すし屋を中心とした飲食についてはことしは大変よかったそうでございます。さらに、コンビニエンスストアに至っては大変な売れ行きだったそうでございます。また、ことしに入りこれまで、南房パラダイスを除く観光施設であります水中観光船、ファミリーパーク等は、この不況の中、夏は昨年に比べよかったそうでございます。

観光案内所に訪れるに客に聞いてみますと、春シーズンはどちらかといえば女性が多く、ゆっくりとした花を中心とした自然派であり、夏についてはいよいよ若者を中心としたまちというふうに変わってきているのではないかと。湘南海岸からの移動客もあり、彼らは俗悪化してきている湘南、神奈川方面

から館山を選んできたという人も少なくないようでございます。館山のイメージとして、館山への旅をするという感覚が薄れて、首都圏のすぐ近くのレジャー地としての館山に変わってきつつあるととれます。東京湾横断道や東関東自動車道の完成に伴い、私たちは交通時間が大幅に短縮され、お客が大勢訪れ、人の交流も高まり、館山市は大いに発展するとのメリットばかりを考えてきた昨今、少なからず現在のような現象が起きているのであります。

今後の館山の観光と、それに関連する産業の施設等の受け皿づくりのためにも、デメリットを含めた今後の対応についても市は考えなくてはならないと思いますが、いかがでしょうか、お尋ねをいたします。また、市当局はどのように木更津まで道路ができるだけで前述のように変わっていく市について、今後どのような施策を考えておるのか、お聞かせをお願いします。

最後に、市道、里道の整備についてお尋ねをいたします。住民にとって一番大事な問題の1つであります道路について、道路には国県道、市道、里道、農道等がありますが、きょうはその中の市道、里道の舗装整備について触れてみたいと思います。

御案内のとおり、本年1月に実施をいたしました市民意識調査では、住みにくい理由の設問で、道路や下水道が整っていないが第1位で、29.2%と、前回と同じに多く指摘をされております。市道延長は平成7年3月 336.3キロメートル、そしてその舗装率は93.6%と聞いております。毎年若干の伸びしかないということは、毎年市道の認定により道路の延長がふえることも原因であると伺っております。市道の中には、認定上の市道で、舗装化をしないと不便を感じない山間部などの市道があらうかと思いますが、実際のところ市としては何%をもって舗装化が終わったとお考えになるのでしょうか、お伺いをいたします。

次に、里道についてでございますが、市道優先で、市道が終わったら、市道の舗装完了で、次が里道の整備と過去に何回か聞いておりますが、そろそろ里道の整備計画等も立てる時期ではないかと思えます。里道の実態調査などを考え、実施して、どの程度の整備が必要なのか、早いうちに計画を立てたらと考えます。住民にとって、道路が市道であるのか里道であるのか、ま

た農道であるのかわからないところが多くあるのが実態のようでございます。
今後の里道に対してのお考えをお聞かせください。

以上質問いたしました、御答弁により再質問をさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの永井議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の第1点目、現状のごみの実態と最終処分場の見通し、その確保はどうかとの御質問でございますが、ごみの実態についてはおっしゃるとおりでございます、文化のバロメーターとして恥ずかしい状況でございます。これはどこの会へ行きますとも、どういう話し合いの場へ行きますとも、同じような意見がたくさん出ます。まことに残念なことでございます。

さて、平成6年度におきますごみの排出量は経済環境部長から説明させます。新しい最終処分場の建設につきましては、鋭意努力しているところでございます。

第2点目の容器包装リサイクル法についての対応はどう進めるかとの御質問でございますが、これは先ほど三上議員の御質問にお答えいたしましたとおり、現時点では政令、省令が示されておきませんので、国、県の動向を踏まえ、対応を進めていく考えでございます。

第3点目、ごみ問題について市民の意識調査を実施したらどうかとの御質問でございますが、ごみ問題につきましては、広報や環境美化カレンダー等によりまして、その意識の高揚を常に図っているところでございます。今改めて調査というところまでは考えておりません。

第4点目、今後のごみの減量とリサイクル等の具体的な対策をどのように考えているかとの御質問でございますが、館山市では分別収集を既に実施しておりまして、ごみの減量、再資源化の促進を図ってきているところでございます。今後、容器包装リサイクル法が制定されたことを踏まえまして検討してまいります。

次に、大きな第2、今後の観光とその関連産業に対する対応についての御質問でございますが、南房総に大きな影響を与える東京湾横断道路工事の進

展や、館山自動車道、これが木更津南まで開通したことによりまして、館山市と首都圏との時間距離が大幅に短縮され、観光、レクリエーション面におきましても、日帰りから滞在まで多様な行動に対応した整備が求められつつございます。通年型観光地を目指します館山市といたしましても、これら多様化する観光ニーズを踏まえまして、温暖な気候や豊かな自然などを活用しまして、新たな観光資源の開発、諸施設の整備、受け入れ態勢づくり等を推進してまいりたいと考えております。

次に、大きな第3、市道及び里道の整備についての御質問でございますが、市道の舗装につきましては、生活道として利用されている道路はおおむね完了していると考えております。また、里道の整備につきましては、材料支給等で整備しているところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 平成6年度におけます排出量についてお答えをいたします。

可燃物につきましては2万 1,271トンでございまして、前年度に比べまして0.9%の増でございます。不燃物につきましては3,763トンで、前年度に比べまして1.7%の減となっております。また、古紙につきましては、回収量は1,368トンで、前年度に比べまして10.8%の増という状況でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 再質問させていただきます。

ごみの問題につきましては一括してお伺いしてまいります。今全国の各自治体では、このごみの問題で大変に頭を痛め、悩んでおります。特にこの処分場の問題では、東京都の日の出町、現在の谷戸沢処分場が、有害物質漏れの遮水のためのゴムシートに欠陥がわかりまして、有害物質漏れが心配され、住民が町と処分組合に対してその公開を迫ったが、それが果たせずに、町を挙げて問題となっております。この処分場、現在ある処分場はあと1年半しかもたない。第2処分場の建設計画が進められまして、ことし4月に住民説

明会があったばかりでございます。この第2処分場の建設も暗礁に乗り上げておるようでございます。そして、ここにごみを搬入しております武蔵野市などでは、市民にごみを12%減らそう、こういう緊急対策などを行っているようでございます。そして、この問題についてある識者は、処分場の絶対的な安全性と、大切なことはもはやごみの総量を規制する時期が来ている、このように指摘をしております。当市においても、この処分場のことで市長さん初め関係課では大変に頭を悩まされていることと推察をいたします。

そこでお伺いいたしますが、当市の年間のごみ処理費用でございますが、全体でどのくらいになりますか、また1人当たりの処理代は市ではどのようになりますか、お伺いいたします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 処理費用に関する御質問でございますが、平成6年度におけます年間ごみ処理費は5億 1,404万 8,000円という数字になっております。単純に市民1人当たりに換算いたしますと、9,570円という数字になります。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 5億 1,400万円余り、1人当たりが9,570円、全国平均より随分安く上げているようでございます。大変優秀な市となります。ただ、平成5年6月議会で私紹介いたしました、鹿児島市ではごみのダイエット運動が行われまして、53グラムのごみのダイエット、減量運動をやれば、1年間に2億 4,000万のごみの処理費用が節約できるということでやったそうでございます。ごみを出せば出すほど税金のむだ遣いになります。また、ごみを減らせば処理費用も減って、税金の節約にもなります。

既にこれも提案いたしましたけれども、減量の方法といたしましては、身近な方法として、いわゆる焼却炉、コンポストへの使用補助制度などがあります。このコンポスト——従来のコンポストは時々見かけますけれども、臭くなって大変なようでございますけれども、最近これにかわり、容器はあれですけれども、EM容器セットなるものが大変評判がよいようでございます。

これは、「地球を救う大変革＝食料・環境・医療の問題がこれで解決する」という著書を琉球大学の教授であります比嘉照夫氏が出版されて、大好評のようであります。これは市の図書館に置いてありますので、お読みになったと思いますけれども、読んでいただければよいと思います。

EMとは有用微生物群のことで、このEMは農作物を大いに実らせ、人間に不都合な汚染物質を始末してくれるほかに、人間の健康面でも非常に効用があるそうでございます。これまでのコンポストは、先ほど申しましたように、ごみを腐らせ、それを堆肥化、そして悪臭がひどい。このEM容器は、EMを振りかけるだけで生ごみを分解、そして悪臭が少ないのが特徴であります。EM容器セットは3,100円だそうです。これを取り入れているのが茂原市でございます。生ごみは家庭で分解処理を、こうすることで、このEM容器セット購入者には約半額分の1,500円を補助して、ごみ減量の一施策として好評のようでございます。このほか、千葉県では茂原市のほか我孫子市、鎌ヶ谷市などが実施しているようであります。

東京都では、半透明袋、これもさらなるごみの分別の決定打になります。最近いろいろ問題が、プライベート等いろんな問題があったそうでございますけれども、ほぼ軌道に乗っておるようでございます。

そして、この生ごみを処理をする、このような方法で処理をするということを何度か質問いたしましたけれども、これを処理いたしますと、炉が傷むということでできない、このような答弁をいただきましたけれども、ちょっと理解できないんですけれども、茂原市の焼却炉と館山で使っている焼却炉、これ違いがあるんでございましょうか、どうなのか、お聞きしたいと思えます。

いずれにいたしましても、分別収集も1つのごみ減量の方法でございますけれども、さらにごみをいわゆる出さない、減量していく、これが大事じゃないかと思えます。この減量のためのこれらの施策はどのように考えておりますのか、お尋ねをいたします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） ごみを減量するということは、もう従来か

らずっと重要なことでございまして、住民の皆さんにもお願いをしてきておるわけでございますし、今後も減量というようなことは続けていかなければならない、このように考えているわけでございます。

今お話のございましたコンポスト — いわゆるEM菌関係の、それを使用しましたコンポストというようなことでございますが、私どももそのEM菌を使った — これはごみ処理ばかりではございまして、ほかの面にも非常に有用だということは情報としては承知をしておるわけでございます。県内でも、ある市町村でその効用についてテストを実施しているというようなことも伺っているわけでございます。そういうことで、ごみの減量につながるというような判断が私どもとしてできるものであれば検討をしてみたい、このように考えております。

それと関連しまして、焼却炉に影響が出る、これは全くそのとおりでございまして、当初設計いたしましたときにごみ質が変わっておるために、高温の焼却に耐えないということでございます。茂原との違いはどうかということでございますが、それは各地区によりまして、各市町村によりまして、ごみ質の違い等によってそういう差異があるのではないかな、このように考えております。ただ、やはりごみの減量ということは当然考えていかなければいけないことでございますので、何とかその辺クリアできるものであればクリアをして、やはり搬入するごみというものは減らせるものならば減らしていきたい、このように考えております。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） このEM容器セットによるごみの減量は大変よいようでありますので、モデル事業としてやってくださっても結構でございますし、試験的にやってみたらどうかとお願いいたします。

新リサイクル法の対応につきましては、三上議員への答弁で了解をいたしました。

さて、市民意識調査につきましてでございますが、市民の1人1人がごみ問題について — これはなぜ提案したのか。これは、まず冒頭に申し上げましたごみに対する、減量に対する処分場の問題とか、いろんな問題がごみ行

政にはいっぱいあるわけでございます。これをどれだけの市民の人が深刻に正しく認識をしているのか。ごみに対する正しい認識、考え方。恐らく、若い方はもちろんのこと、とにかくごみはもうごみステーションにぼんぼん、ぼんぼん出せばいいんだ、そういう安易な、そういう考え方の人が大変に多い、このように僕は——ごみのステーションを見ても、使えるものがいっぱい捨ててある。私は正直言って、使えるものは持って帰ります。ペットボトルにしても、もう何遍も使います。僕はもちろん経済の方は——今経済問題のことを言うわけではありませんけれども、水はたくさん売っています。僕らの子供のころなんか、水なんか買ったことがない。小仏峠あたりへ行ったときに、山の上ですから1杯幾らと買ったことがありますけれども、ほとんどそういうふうに使って、ペットボトル、そういったものをぼんぼん出しております。このごみ問題に対して正しい認識を持っている市民の方々がどれだけいるだろうか、まずそれを調査して、そして正しい認識をその調査のもとに把握をいたして、あわせて市民からの意見、要望等をいただいて、適切な対策を講ずれば大きな効果が期待できるんじゃないか、このように私思うわけでございます。

御答弁によりますと、広報や環境美化カレンダーなど、分別収集に大いに成果を上げました。分別収集も非常に大事でございますけれども、とにかくごみを減らす、これが大事じゃないか。そのための意識調査をお願いしたわけでございますけれども、この点について再度お伺いいたしますが、いかがでございましょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほども市長から御答弁申し上げましたように、館山市につきましては、分別につきましては、非常に住民の皆さんの御協力をいただいております、かつてはいろんなものがまじっているというようなケースもございましたけれども、最近ほとんど分別がよくされているというのが実情でございます。ただ、ごみを減らす、いわゆるごみの減量という部分については、今までもお願いをしてきているわけでございますが、ケースによっては議員の御質問のような部分もまだあるのかなというふ

うな、そういう考え方は私どもも持っております。ただ、意識調査ということも考えられるわけでございますけれども、その減量につきまして、そういうごみの実態等をどういう媒体を使って住民の皆さんにお願いしたら効果があるのかというようなことも当然これは前提条件になるわけでございますけれども、その辺を踏まえて、今後住民の皆さんにどういう形をお願いしたら一番いいのか検討してまいりたいと考えております。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） ぜひとも何らかの形でこのような調査を行っていただきたい、このように思います。強く要望をいたします。

またあわせて、市民の方にこのごみの実態を深く認識をしていただくために、各町内会、各種団体あるいはグループ単位でのこのごみ問題の勉強会あるいは見学会 ― これは処分場、清掃センター等の関係施設 ― を実施していただいて、また関係課の職員によるいわゆる説明会などを継続的にしていただいたら、また大きなごみに対する認識が深まるんじゃないかな、このように考えますけれども、このようなことをしていったらな、このように思います。この点についていかがお考えか、お聞かせください。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） いろいろと御意見をいただいて、大変ありがたく思っております。繰り返すようでございますけれども、そういうごみの減量につながるような住民の皆さんにお願いする機会というものは今後もしいろいろと考えてまいりたい、そのように思っております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） ぜひともお願いしてまいりたいと思います。

これも平成5年6月議会で質問いたしました。「取り戻そうきれいな川と海」というテーマで海洋へのごみのポイ捨てについてたどりました。漁船、遊漁船、運送船 ― これはよく言う沖合を走る本船でございますが、海に缶、瓶、釣り具 ― おもりだとかてぐすだとかリールだとかロッドだとかとあります。ビニール袋等のごみ。特に注目したいのは網漁、昔は木綿網、木綿の

素材でできておりましたから心配なかったんでございますけれども、今はほとんどナイロン、合成繊維の素材の網でございます。この網が、エビ網にしても、ヒラメをとるにしても、根にかかりますと、ちぎれて捨て網となります。それが磯根にかかりまして、永久に腐らなくて、そこに蓄積してまいります。これらのごみによって、魚類の環境破壊がある、海洋資源の絶滅が大変心配だと私指摘をいたしました。そのために、ポイ捨て防止のための対策と、海底のごみの実態調査をお願いいたしました。

御答弁では、市にとってきれいな海は——これは渡辺部長だったですね。きれいな海は貴重な財産であり、県等の関係機関と十分に協議していきたい。そして、これは現経済環境部長の答弁だったんですが、実態調査については、関係の漁協等と協議して、どのような対策がよいのか、そういう方向で進めていきたいとの御答弁でありました。このことについて、現在どのような方向に進んでおるのか、お尋ねをいたします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 海域のごみの関係でございますが、平成6年度に——事業名は水域環境クリーンアップ事業という事業名でございますが、これは釣りの振興会等の参加もございましたので、キャンペーン的な色彩のある事業であったわけでございますが、市内の洲崎と伊戸地区につきまして、潜水による廃棄物の撤去を行っております。量で申し上げますと、釣り具とか漁具漁網、雑品として缶、瓶等が約1トンほどあったわけでございまして、相当量海中に投棄されているということがわかったわけでございます。そういうふうなことで、今後——これは制度的な事業ではございませんので、ただこういう実態は実態でございますので、これらを踏まえまして、今後どのような対応をしていったらよろしいのかこれから検討をしたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 館山市は三方を海に囲まれています。非常に海の資源がいっぱいでございます。人間による自然の破壊、魚類のすむ環境汚染、

ごみによっての環境汚染、これによって海の資源を絶滅の危機にということも十分考えられるわけでございます。

館山でございますけれども、釣りのメッカでございます。大物でございまして — 私は釣りが好きだということを前に言いましたけれども、ブリ、ヒラマサ、カンパチ、タイ、ヒラメなど、小物ではアジ、イサギ、イカ、イワシ、たくさんとれました、一昔前。自分のあれで大変恐縮でございましてけれども、20数年前なんか、平砂浦沖でヒラメを50数枚もとったことがあります。釣り上げたことがある。洲崎、布良沖ではヒラマサ、タイ、マダイ、3キロから15キロの魚を10数本とったこともあります。今はとても夢です。あわせて、御存じだと思いますけれども、布良沖のヒラマサの漁場、部長知っているとだと思いますけれども、あれは布良港の水揚げの中心的魚だったんです。今全然だめです。あそこにいらっやいませんけれども、小宮先生なんかは嘆いておりました。今全然だめ。何が原因でそのようにとれなくなっちゃったのか。

市長さんに先ほどごみの — 海底にダイバーに潜ってもらって写真を撮ってもらった。どうでしょうか。それをごらんになってどのような印象をお持ちになりましたか、お尋ねをいたします。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

◎市長（庄司 厚君） 最初に申し上げましたとおり、ごみの問題は、陸でも海でも川でも変わらないほど汚れている。過日、市の担当職員でこのバイパスを大掃除したことがあるんです。半日たってもう一回行ったら、またいっぱいある。こういう状況でして、これを拝見しますと、水の中でも同じような状況です。しかも、陸の方でも、単なる道路のわきじゃなくて、田んぼの中でもよし、畑でも、どこでも自分の欲望のままにほうり出すという、こういう悪い — 本当にさっき言いました文化のパロメーターだ、そういう嘆かわしい実態でございます。しかも、これが安房だけじゃなくて、県下全体。市長から言いますとそういう状況でございます。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） いわゆる魚類の減少、激減と申しますか、これは

何が原因なのか。環境の破壊か汚染か乱獲か、または自然現象の異変なのか、本当に懸念されるところでございます。

そこでお尋ねをいたします。時間がございません。館山市全体でのこの五、六年の漁獲量の推移はいかがでございますか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 手元に今資料がございませんので、後ほどお答えさせていただきます。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） とにかく、僕がちょっと見たところによりますと、平成元年ごろから平成6年ぐらいまでの漁獲量は半減以上だと思います。調べてみてください。平成元年 8,549トンが平成6年 3,888トン、半減以上の漁獲量です。何が原因だと思いますか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 全国的に沿岸漁業というのはそういう傾向にあるようでございますので、館山において何が原因かというようなことについての分析はちょっと持ち合わせておりません。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） いずれにいたしましても、海底汚染、環境破壊、ごみによる、これも一因と考えられます。したがって、昨年清掃作戦を県のあれでやったんですけれども、市としても — あと残っているところはいっぱいあります、魚のすむすばらしい場所が。その魚を守るためにも、僕の魚を釣るためにも、その資源の確保は絶対必要じゃないか、そのように考えますので、どうかこの実態調査をしていただいて、適切な措置を講じていただきたいな、このように思いますので、強く要望いたします。市長さん、よろしく願いいたします。

時間がございません。次は観光の問題でございますけれども、提案がございます。宿泊施設の問題ですけれども、館山市の入り込み状況と宿泊客数、これの推移をまずお伺いをいたします。簡単に — 数字ですから、よろしく

お願いします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） まず、入り込み数でございますが、平成元年で申し上げますと 158万 3,000人でございます。平成6年で申し上げますと 175万 6,000人でございます。この間はおおむね 160万人前後で推移をいたしております。それから、宿泊数でございますが、平成元年が73万 3,000人でございます。平成6年は65万 5,000人ということで、平成3年までは漸増しておりましたんですが、平成4年以降漸減、こういうような状況でございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 14番永井さん。

◎14番（永井龍平君） 宿泊客数ですけれども、すごく減っているわけです。これは宿泊施設に問題があるんじゃないかなという気がするんですけども、宿泊施設の設備の充実、サービスの、対応のよしあしで決まると思いますけれども、この宿泊施設に対しての利子補給制度のいわゆる融資額の拡大などを考えていただければな、このように思いますけれども、どうでしょうか。それで質問を終わります。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 館山市の中小業者に対する融資制度についての御質問だと思いますが、確かに宿泊施設等にそういう設備面での差があるということは私ども伺っております。そういう意味で、その融資制度を利用してそういう設備の充実を図っていくということだと御質問の趣旨は考えるわけでございますけれども、現在は設備資金で 500万円という数字でございます。運転資金で 300万ということでございますが、そういう需要が相当あるというような状態を把握できれば、増額については当然検討してまいりたい、このように考えております。

それから、先ほどの漁獲量の関係でございますけれども、同じような資料でございますので、ざっと申し上げますと、御指摘のとおり、平成元年が 8,549トン、平成6年は 3,888トン、各年漸減というような、そういう状況で

ございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 以上で14番議員永井龍平さんの質問を終わります。

続いて、9番議員島田 保さん。御登壇願います。

（9番議員島田 保君登壇）

◎9番（島田 保君） 私が最後の質問者になりましたけれども、内容も話し方も非常に下手でございますけれども、しばらくの間御清聴をお願いいたします。

さきに通告いたしましたとおり、私は行政改革の問題、第2にウェルネスリゾートの問題、そして第3点に農業問題について、市のお考えをお伺いしたいと思います。

まず、第1の行政改革についてでございますけれども、市役所では、市役所内部の統廃合により、大幅な機構改革が行われましたが、事務の合理化、市民サービス等について、その成果をお伺いいたします。

バブルの崩壊によって景気が低迷し、そして回復の兆しがまだ見えない現在の状況でございますが、昔の高度成長とか、あるいは財政の大幅な伸びを期待することは不可能であります。一方、行政需要は多様化し、複雑化し、そして新たな課題や住民ニーズにこたえ、時代の要請にこたえるために、機構改善、行政事務の迅速化、そして市民サービスに万全を期すべく、周到な調査と努力に深く敬意を表します。廃止してもよいものとか、縮小してもよいものとか、あるいはまた統合すべきものとか、発想を転換し、大幅な庁内機構改革を断行されたことに対し、私は高く評価すべきであると考えております。

生活の多様化により、事務の質も高まり、そして量も大分ふえたことと思いますが、経費の削減と事務の能率向上に努めて、効率的な行政運営を目指すべきだと思います。各課の細分化は、担当職員の分野も狭くなり、職員の視野にも影響しますし、縦横の連絡も粗雑になることは必定であります。なるべく大きくし、そして課を統廃合した現在、職員の協力体制も確立すると考えられます。組織機構の見直し、再編成は、まさに時期を得た決断であ

ると信じます。

改正から5カ月有余、この成果について、あるいは現在の御感想をお聞かせいただきたいと思います。

庄司市長は常に市民とともに歩む政治を標榜しておりますが、この公約どおり、行政内容がわかりやすいガラス張りの行政運営を切望するところでございます。

次に、第2点といたしまして、末端行政組織として各集落単位で行われておりますが、新興住宅地域等では独自の自治会づくりに行政指導はできないかという問題でございます。私たちの地域では、末端行政組織と申ししましても、市の行政組織とは全く別のものであり、この地域の独自の解釈に基づく自主判断の集まりであることをまず申し添えておきます。

集落が一行政区としての観念から区長を選び、その区長が集落の行政責任者として、市の行政庁との密接な連携によって、広報の配布とか市からの連絡、あるいは行事、催し物等の回覧、あるいは集会で情報の伝達、そして協力という図式でまわっているところでございますが、ここに住民相互の信頼関係と地域自治意識の高揚が図られるわけでございます。

近年、団地や新興住宅地がふえ、新住民が地元の戸数を上回るほどのところも多々見受けられるようでございますが、これらの地域では、集落組織に加入しない傾向が各地で見受けられます。以前は、少人数のためか、ほとんどの方が加入いただいておりますのですが、地域の行事、あるいは消防とか防災とか、地域内の清掃とか、各種負担金の徴収、諸問題について、住民サービスの一環として啓蒙普及する意味からも、強制ではなく、その説得はできないものでしょうか。その方たちに伝達する機会もあり、そしてお知らせ等は身近に話せる場もあると思いますが、いかがなものでしょうか。

私の地域の方たちは、少しでも一緒になれるように努力をし、そして近づいているわけでございますが、なかなかそのようなわけにもいかないのが実情でございます。昨年も部落で初のグラウンドゴルフ大会を催しましたが、残念ながらほとんど参加をいただけませんでした。コミュニケーションを図るために設定したその趣旨がやっぱりわからなかったのだと思うと、残念で

なりません。

少しでも明るく住みよい地域づくりをするためにも、市当局の御協力をお願いしたいと思いますが、そのお考えをお伺いしたいと思います。

私の集落のみならず、各地でかようなことを耳にいたします。地域社会の連携、人と人との輪を考えますときに、小さな問題のようですが、大きな社会問題化する傾向もございます。そして、あえて私はこの本席をおかりいたしましてこれを申し述べさせていただきました。

次に、ウエルネスリゾートパーク計画の進捗状況についてお尋ねいたします。一昨日の全員協議会で計画の概要が発表されまして、その全容はわかったわけでございますし、ただいまも小幡議員の方から質問がございましたので、重複は避けたいと思いますが、地元でございますし、その立場上、一応御質問はさせていただきます。私は、ウエルネスリゾート計画、館山市複合カントリー整備計画について、地元の議員として、平成元年に計画され、昨年も一昨年もこの用地買収に入っており、地元として協力したという関係上、その後の状況についてお尋ねしたいと思うわけでございます。

本市に予定された海洋性リゾートタウン計画は、既に太陽海岸平砂浦計画、あるいは南たてやまマリパーク計画、そして館山レインボー計画の民間の3大リゾート計画がバブルの崩壊によりまして消滅し、自治体主導型のウエルネスリゾートパークのみが着々進行中であり、いよいよ注目の的となってまいりました。前日の説明では、想像以上に大きく、楽しく、より健康的な施設建設が計画されましたが、風光明媚な自然を生かし、観光産業が減少傾向にある我が市のリゾートの核といたしまして、市民はもちろん、多くの来客を期待したいと思います。健康的で気楽に楽しめる健全な保養施設として、早期完成を祈念いたします。

観光リゾート行政は自治体のみでできるものではありません。観光には観光産業が伴うものでございます。民間の力をどう結集するのか、その必要に迫られているわけであります。市民の望んでおります健康で文化的な憩いの場、子供たちの夢が膨らむ施設を早く完成するよう切望いたします。

この問題について市長のお考えをお伺いしたいわけでございますけれども、

先ほどの小幡議員の質問と重複する関係がございますので、もし重複するようであれば結構でございます。

そして、第3点としまして、新農政による農業経営基盤強化促進に関する館山市の構想が発表されましたが、具体的にどのように実行するお考えでしょうか。御承知のように、ガット・ウルグアイ・ラウンド合意により、本年1月から発効され、そして輸入米も、第1次入札も終わり、着荷を待つばかりとなりました。この合意内容は、世界の環境、人口、そして食糧問題にとって大きな影響をもたらすものでございます。

我が国が社会的、文化的に安定した国家として長く存続していくためには、農業農村の存続が必要不可欠であります。農業が持つ食糧供給や国土、環境保全の役割はますます重要であります。農業を産業として足腰の強いものとする農業基本政策を必要とする関係から、新政策が発表されました。この中で、農業経営基盤強化促進法に基づき、今回館山市の基本構想が発表されたものと思います。

基本的な推進方向として、21世紀に向けて、現在以上の農業生産力を確保しながら、国土保全等の機能も十分に果たし、次世代に継げる魅力ある農業農村を創造していくため、農業の基盤強化の基本的な推進方向は次のとおりである云々、このようないわゆる基本方針が発表されました。そして、育成する経営体としては、自ら経営の改善を計画し、実現に強い意欲を持つ農業者をもって充てるとし、そのため、認定農業者制度の普及推進を図る必要があります。

我が市の場合、認定農業者などはどのような方法で推進するのでしょうか、お伺いをいたします。現在のところ、まだ5名だと聞いております。案に示されたとおり、農地利用集積、あるいは資金融資とか税制面の優遇が利点とされ、いろいろあると思いますが、肝心の農業者が少ないように思われますが、いかがなものでしょうか、お伺いをいたします。

次に、第2点、法人組織、集落単位の組織について伺います。いつも言われるとおり、後継者不足、労働力の高齢化が厳しい状況の中、この目標の中に、国土保全、環境の保全等のため、公益的機能を維持できる農家の推進が

うたわれておりますが、さらに地域経営体の育成に、水稻を中心とする地域経営体の育成について、集落単位もしくは農業用水系統の小単位ごとに組織を推進すると掲げております。具体的に推進する方法等についてお答えをいただきたいと思います。

第3点、新食糧法について。食糧の自給と安定に関する法律についてお尋ねをいたします。昭和17年に制定された食糧管理法にかわって、米の流通規制を緩和する新食糧法が11月1日から施行されることになりました。その細部については全く不明でございます。需要、供給と価格の安定に国が責任を負うということを明確にした上でこの施行をお願いしたいところでございますが、いずれにいたしましても、政府米は縮小され、自主流通米が主体に変わるのではないかと思いますけれども、この新法についてのお考えをお聞かせいただきたいと思います。

最後に、有害鳥獣駆除対策について伺います。最近、収穫間際になりますと、鳥獣に食い荒らされる被害が続出しております。市内全域に被害が及んでおりますが、駆除方法も種々考え、手を変え、品を変え考えておりましたが、なかなか的確な駆除対策がございません。作物にあっては、収穫皆無という場合もございます。やむなく耕作を放棄し、荒廃地となるケースもだんだんふえてまいりました。農地保全の立場から、自助努力と思っても、いかんともしがたいのが実情でございます。この駆除対策について、市のお考えをお尋ねいたしたいと思います。

なかなかまとまりませんでしたけれども、御答弁をいただきまして、再質問させていただきます。

◎議長（辻田 実君） 庄司市長。

（市長庄司 厚君登壇）

◎市長（庄司 厚君） ただいまの島田議員の御質問にお答えいたします。

大きな第1の第1点目、機構改革による事務の合理化、住民サービス等の成果についての御質問でございますが、館山市は従来から行政改革に積極的に取り組んでおりまして、組織機構の簡素合理化、市民にわかりやすい組織を目指した機構改革を国、県に先駆けまして実施し、福祉部門の拡充強化に

よりも高齢者に対するサービスの向上、税務部門の統合により事務処理の合理化や、生涯学習部門の整備等によりまして市民の学習機会の充実が図られるなど、成果を上げております。また、窓口としての市民案内は多くの市民に利用されておりました、大変好評でございます。さらに、本年度は事務事業の簡素合理化、行政サービスのより一層の向上に取り組んでいるところでございます。

次に、第2点目、新興住宅地域等では独自の自治会づくりに行政指導できないかという御質問でございますが、自治会は住民の自治組織として自発的に結成し、自主的に運営されるべきものと認識しております。地域によりましては御意見のような地域もありましょうが、あくまでも住民の自治組織として、住民を温かく巻き込んでいくよう御努力いただきたいと存じます。

次に、大きな第2、ウェルネスリゾート計画の進捗状況についての御質問でございますが、計画の概要につきましては、さきに小幡議員の御質問にお答えしたとおり、4つのゾーンより構成されておりました、基本構想を策定したものでございます。用地取得率につきましては、現在50%でございます。今後とも引き続き用地取得に努め、計画実現に向けて努力してまいります。

次に、大きな第3、新農政による農業経営基盤強化促進に関する館山市の構想発表に伴う具体的な実行についての御質問でございますが、第1点目の認定農業者の推進につきましては、昨年度策定しました基本構想に基づき、館山市農業経営改善支援センターを設置し、認定農業者や認定農業者を志します意欲的な農業者の支援、相談窓口として活用し、さらに認定農業者制度の啓蒙普及を図ってまいりたいと考えております。

次に、第2点目の法人組織、集落単位の組織につきましては、まず地域の特性を生かした経営形態を基本としまして、安定的な経営体を育成するため、関係機関と協議しながら農地の集積を図ってまいりたいと考えております。

次に、第3点目の新食糧法につきましては、現行の食糧制度の政府米と、自主流通米に相当する計画流通米による安定的な流通確保を基本としながら、生産者から消費者に直接販売する産直米等の計画外流通米を認め、流通規制を必要最小限にとどめ、本年の11月1日から施行されることとされております。

す。

次に、第4点目の有害鳥獣駆除対策についての御質問でございますが、農水産物に被害を与えます有害鳥獣を迅速かつ適正に駆除するため、被害を受けた方は館山市または農業協同組合等に対しまして駆除を依頼し、安房支庁長の許可を得て駆除ができることになっております。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 9番島田さん。

◎9番（島田 保君） どうもありがとうございました。

行政改革の問題につきまして、まず、多くの通告質問の中で、市の施策に全面的に賛成し、そして賛意を表するのは余りないと思います。私は全面的にこれに賛成するものでございます。ただ、この行政改革が重要なことは、だれしもわかっていることでございますが、市民サービスについて、改革していいことばかりではないと思います。あるいは、まだ改善すべき点とか戸惑っている点とかがあるかも知れません。これで全部済んだのかどうか、あるいはこれからまだ多少見直しもあるのか、その点をひとつお伺いしたいと思います。

それからもう一つ、せっかく機構改革をして発想の転換をしたところで、いわゆる役所の職員の気持ちも少し一新していただきたいところがあるわけでございます。それは情熱とアイデアの問題でございます。いわゆる段ボールの積み重ねのような決まりきった行政から、いわゆる市民サービス——市民に対していろいろ教えるとか、あるいは知らせるとか、もう少しできないものか。これがちょうど機構改革のいい時期でございますので、その点をひとつお伺いをしまして、一応この見直しがあるかないか、この問題についてお尋ねいたします。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） ただいま市長の答弁の後段にございましたように、今年度さらにその事務事業の簡素合理化、あるいは行政のサービスのより一層の向上ということで、現在取り組んでいる最中でございます。

それともう一点、情熱とアイデアを持った職員の育成ということになるう

かと思えますけれども、毎年全職員を対象にいろいろな研修、そういったものを実施しまして、時代のニーズに沿った、職員という自覚を持った中での多様な研修を現在実施しておるところでございます。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 9 番島田さん。

◎9 番（島田 保君） 大変結構なお答えで、ありがとうございます。そのようなことで、いわゆる行政の方も、その能率の向上とか、あるいは住民サービスもぐんと変わって、新しい館山の活力が役所の中からも出てくることを期待するところでございます。

次の2番目の問題でございますが、行政効率を上げて市民サービスをするために、行政はいわゆる末端の自治組織には口は出せない、いわゆる指導はできないようなお話でございますけれども、いわゆる行政改革というのは、庁内の、役所の行政を変えるだけじゃなくて、末端組織を変えていったらもっと改革ができるんじゃないか、スムーズになるんじゃないかと考えたときに、私どもの部落が特にそうでありますけれども、新興住民がふえまして、昔の集落単位のいわゆる一部落一行政区的な観念がとかく——随分ほかの考えがふえてきまして難しくなっております。それを部落で——今のお答えにもありましたように、温かく地元で迎えて話をしてといいましても、なかなかそのようなことは難しいのが実情でございます。これはよその地域でもかなりそういう問題があると思えますけれども、これをやはり行政がするんじゃないくて、たまたま接触する機会があるから、そういうときに少しでも話をしてくれば——いわゆる自治意識の高揚とか、あるいは行政の簡素化とかの難しい話じゃなくて、恐らく連絡にはそのようなことがあると思うんで、そういうふうな方法ができないのか。

現在のところは、うちの方はいわゆる区長が、部落の、集落の区長が行政責任者として市の連絡員ということになっておりまして、一応区長さんがすべて回覧とか、あるいは集会でお伝えするわけでございますけれども、新興住民になりますと、そのような方法のときに戸別に連絡をするのか、それともしないのか、まずそのあたりをひとつお聞きしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 自治会の活動といいますか、組織の問題、これは非常に難しい問題が潜在的にあるわけございまして、先ほど市長の答弁の中にありましたように、自治会は住民の自治組織として自発的に形成し、自主的に運営されるべきだ、私どもはそういう認識をしておるわけでございます。先ほど、グラウンドゴルフなどを通じて新規住民の交流を図ったが、余りうまくいかなかったという話もありましたけれども、一回限りじゃなく、何回かコミュニティ活動等を通じて粘り強く交流を図っていただきたいというのが1つあるわけございまして。

もう一つ、戸別的にそういう入っていない方々に連絡するのか、あるいは区長だけでいいのかという御質問ですけれども、その辺の実態のところは私いま一つわからない面があるんですが、ちょっと私自身が理解できないところがあるんですけれども、行政がいろいろな回覧とかチラシ等々を各自治会の区長さんに渡します。それを、新しい住民の方々はそういうところへ入っていないわけですから、そういった方々に対してどういうふうに渡すか、そういうことですか。

◎9番（島田 保君） そうです。

◎総務部長（神子純一君） そういう方というか、いわゆる新規住民で入っていない方については直接郵送されているようです。直接市の方から郵送、戸別的に。

◎議長（辻田 実君） 9番島田さん。

◎9番（島田 保君） そうすると、郵送ということになると、やっぱり戸別だから、行政事務に多少お金もかかるし、時間もかかるし、またまとめが難しいわけで、これが1つになれば、もちろん望ましいことであるわけございましてけれども、たまたまうちの部落の場合にはその方たちがかなり——実際言うと、82軒の旧住民のところが170戸余りの要するに戸数になって、倍以上ふえて、そしてしかも別荘があり、ペンションがあり、いろんなものがある、実際にはかなりその人たちが多いわけございましてけれども、なかなかその連絡方法というか、部落の取りまとめが難しいもので、常にこの

問題で困っているわけでございます。

そこで、このような方法が何とか — 行政をと言ってはおかしいわけですが、しかし行政にしたって、やっぱり一応行政区として分けてやっているわけでございますから、何らかその方法はないかということでお尋ねしたわけでございます。

◎議長（辻田 実君） 神子総務部長。

◎総務部長（神子純一君） 今島田議員の御質問で、私非常に勉強不足で、戸別的に入っていない人にやっているのは広報のようです。ほかのチラシとか、そういった問題について、私自身今ちょっと — 初めて聞いたものですから、非常に貴重な御意見として承りましたので、ちょっと検討させていただきたいと思いますので、ひとつよろしくお願いします。

◎議長（辻田 実君） 9番島田さん。

◎9番（島田 保君） だから、よくやっぱり聞いた方がいいですよ。市民はみんなそういうことを願っているわけで、それは確かに個人で全部連絡していただければ結構なことだけれども、いわゆる行政がまとまったものをするときに、部落の要望というものはなかなか予算がないから聞かないといっても、現実の問題として、その新住民が生活道が困るから直してくれというときに、やっぱり困れば直す。部落としても、わずかな予算であっても、この新興住宅地の中に道路があって、市道は別にしても、生活道というものはみんな資材交付で地元でやる。予算は新しい新興住宅地へかなり使われる部分もあるわけで、このあたりのかなりアンバランスなところがあるんで、あえて私はこれを問題にしたわけでございますけれども、これは私の犬石部落に限らず、ほかでもかなり問題があるわけでございます。

私の方は、このまとまったペンション村の近くに40数戸の戸数があるわけですが、道路一本挟んで、今度佐野の部落にやっぱり40戸ぐらいの戸数があるわけです。佐野の方は、行政区は一切関係ない、集落も関係ないということだから、多分部長が言うような連絡方法だと思います。しかし、市民はやっぱり、市民参加ということは、市の行政も知る必要があるわけで、この方たちはいわゆる全然知らない。大変失礼だけれども、無気力なと言っ

てもいいような状態が多いわけでございますけれども、このようなことを何とかみんなが力を合わせて、地域を明るくするために、そして市をよくするために話し合いの場ができたらいいなというふうな気がするわけでございます。

実を言うと、今度房南中学校が新築されまして、あそこに地域開放のためのスペシャルルームが設けられたわけでございます。ああいう地域で使ってもいいよというような部屋がございまして、実際見ますと、今地域でも、せっかくやったけれども、何に使うのかというようなこともあるわけございまして、ああいうところにも、一番近いところでございますから、活用方法もあると思いますし、特に——これはくどいようでございますけれども、各地でこういう問題が起こっておりますので、一応こういう声があるということだけはひとつ頭に置いていただきたいと思います。今後の行政でできるだけ改善して、いい方法を考えていただければ結構だと思いますし、また私どもの方といたしましても、地元として一応それらの今後の対策も考えてみたいと思います。この問題は一応それで終わります。

次は、ウエルネスの問題でございますけれども、これはおとといの全員協議会でも説明願いましたし、先ほど小幡議員の方からも同じように進捗状況について質問がございましたけれども、二、三お尋ねをしたいと思いますけれども、平成元年に計画されたこのウエルネスリゾートパーク計画というのは、私の方はたまたま地元でございますので、地元民としましても、市に協力したこのリゾート計画というものを協力して何とかよくしていただきたい、そして地元のためになってもらいたいということが要望されているわけございまして、今どれくらいの進捗状況だということを聞かれるわけでございますけれども、先ほどのお話から、大体用地の取得率が50%というような話でございますが、この用地は最初は借り受け地もあるように聞いておりましたが、全部県の開発公社であればお買いになるのかどうか、まずそのあたりちょっとお聞きします。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） 当初——平成元年の当時の用地の取得の計画で

ございますが、施設をつくるものについては買収、緑地として残すものについては借り受けということで計画してございましたが、その後変更いたしまして、借りたものに対しては、道路だとか、そういうものができた場合には、やはり緑地として残すものが造成される危険性があるということで、全部買収ということで用地買収を進めておるところでございます。

なお、千葉県土地開発公社に買収委託をしてございますが、これはやはり当然年度ごとに館山市が買い戻しをしておるという状況でございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 9番島田さん。

◎9番（島田 保君） そうしますと、一応順調に進んでいるというか、正直言って少しおくらしているような気もするわけでございますけれども、いずれにしても、そのような計画ができて以上の、当然計画をする以上は、いつできるかわからないということはないと思う。この間の説明では、まだ完成はわからないような返事でございますけれども、一応の目安はあると思うわけでございますけれども、その目安と、それからもう一つは、ちょっとわからないのがいわゆるスポーツゾーンだとかセンターだとか、あるいはアミューズメントゾーンとか、私には余りよくわかりませんが、とにかく県と市と民間と、この事業主体はどういうことになっているのか、お尋ねしたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 永野企画部長。

◎企画部長（永野 修君） 機関でございますけれども、全員協議会の中でも言いましたけれども、これを実現するためには、スポーツゾーンについては公共でやりたいと思っておりますけれども、アミューズメントゾーン、いわゆる娯楽ゾーンですとか、あるいはセンター部門等につきましては、基本的には民間でやりたいと思っているわけです。場合によっては三セクということも考えられるわけですが、基本的には民間でやりたいと思っているわけです。その場合に、スポーツゾーンにつきましては、県の方に積極的に働きかけておりまして、いずれ調査をしてもらいたいと思っているわけですが、現在民間にお願いすべきところが――民間と個々には多少の接

触はあるわけですがけれども、まだその民間が決まっていないうけでございまして、したがって、これから整備していく機関というのは今ここでちょっと言いかねる、そういうことでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 9 番島田さん。

◎9 番（島田 保君） いずれにしても、先ほどから言うように、私どもは地元として、いわゆる協力するということでやっている以上は、なるべく早い完成が待たれるわけでございますけれども、また、恐らく計画したらすばらしい計画で、本当に楽しめ、そして夢を持った施設ができるんじゃないかという大きな期待を持っているわけでございます。

ただ、それにつけても、結局あそこの運動公園から、そのウェルネスゾーンができますと、道路の問題が1つかかってくるわけでございますけれども、いわゆるその取り付け道路について、今の東関道、南町から真倉のいわゆる館白バイパスまではほぼ決まっておるわけでございますけれども、その後の道路計画とか、あるいは今度は茂名地区から — あそこに平砂浦という大きな観光施設が幾つもあります。あっちへの道路とか、そのような計画はお持ちでしょうか、ひとつお尋ねいたします。

◎議長（辻田 実君） 三平建設部長。

◎建設部長（三平孝司君） ウェルネスの地域の連絡道路の関係でございますが、現在 410号の北条バイパスとして、館山バイパスの終点から県事業で計画をしてございまして、用地買収も70%進んでおります。それは現在の運動公園の手前の真倉地区に接続するわけでございます。それから先のものについても当然、これだけの大規模な施設ができますので、改修方をやはり、国道の 410号でございますので、国、県に働きかけていきたいというふうに思っております。それと、現在の構想の中では、やはり茂名から宮城へ抜ける道路についても一部改修が計画をされているところでございます。

以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 9 番島田さん。

◎9 番（島田 保君） 了承いたしました。あの計画どおり、すばらしい

わゆる保養施設が早くできることを切にお願いをしておきます。

次に、農業問題に移らせていただきますが、まず第1点の認定農業者の問題でございます。きのうの農業委員会で、館山市で認定農業者は5名出たということでございます。大変結構なことで、いわゆる認定農業者というのは、将来の改善計画とか、あるいは規模拡大計画を持った優秀な農家が市長の認定を受けて認定農業者となるわけでございますけれども、実を言うと、この新政策に基づく認定農業者というのは余りどこでもまだ進んでいないようでございまして、きのうの委員会でいただいた資料によりましても、千葉県で364名の認定農業者がいるというふうな話でございます。もちろん、一番多いのがあの米どころの香取郡の干潟町、これが87人、そして成田市が33人、そして第3位に、鴨川市が31人認定されております。館山市が5人ということとはかなり少ないようでございますけれども、これはまだできたてだし、よその地区でも余り進んでおりませんので、これは今のところはいたし方ないと思いますけれども、これからどのようにして推進していくのか。ただあくまでも個人的に、要するに申し込みを待っているのか、あるいはある程度市の方でといいますか、行政で農業振興のために勧誘といいますか、やっぱり資格農家に話ぐらいはするのか、そのあたりのことをお聞きしたいと思います。いかがでしょうか。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 先ほど市長の答弁にもございましたように、農業経営改善支援センターを市の農水産課に設置してございます。そういう機関を通じまして、そういう支援または相談の窓口というような活用を図る中で啓発普及を図ってまいりたい、このように考えております。やはり個人の経営体の皆さんの考え方というか、取り組み方は大変難しい部分もあると思いますけれども、やはり意欲を持って農業に取り組みたいという形の ある程度自助的なものも期待しなければいけないのではないかな、このように考えています。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 9番島田さん。

◎9番（島田 保君）　そういうことになりますと、いずれにしても、市でいわゆる将来の — 少なくとも10年先を見込んだ館山市農業の振興ということに対して、5人、8人では、市の施策としてはどうしても少ないような気がいたします。

ちなみに、これは新聞で調べたわけでございますけれども、6月末現在で全国で2万 8,923人の認定農家が出ております。全国1位は北海道の根室市でございます、その2位が山形県の酒田市が367人 — 367人というのはちょうど今の千葉県の認定農業者と同じ数でございますけれども、この酒田市が170の集落で367人の認定農業者がいるということは、平均して1集落当たり2人出ているわけでございます、この2人の、集落当たり2人の農家がリーダーとして地域を引っ張っていけば — それで、総計では65%の農地をこの認定農業者によって占めるような計画だそうでございますけれども、これがいわゆる国の新農政で言うところの農業の振興、大規模経営というのはその辺にあるんじゃないかと思っておりますけれども、その点がただいわゆる法に基づく政策に — 館山市がそのままでもいいかといったときに、恐らくそれは無理じゃないかと思うわけでございます。

そういうふうな観点から、支援センターも確かに農産課の中にかかっております。そして、その相談窓口にいろんな方の — いわゆる学識経験者や大勢の方の — スペシャリストとか、いろんな方の支援体制はできているわけでございますけれども、支援体制はできても、肝心の農家が少な過ぎるんじゃないのか。酒田市の場合に、いいところは、地域ぐるみ、集落である程度相談をして、合意をして、それでこれからの農業を考えていくところにあるところがあるわけでございます。館山市の場合に、きのう発表されました5人の認定農業者はほとんど複合経営でございますが、確かに水稻専作の希望者もございます。あるいは、これから基盤整備をしてという方もございます。そういう意欲のある方を少しでも認定してやっていけば結構でございますけれども、少なくとも、最低限度15人、20人の仲間がやっぱり必要じゃないのか。3人、5人でもってただやりましたというよりも、実際に効率的な運営というものを考えたときにそんなふうなことを考えますが、今後のその推進

方法についていかにお考えになられるか、ちょっとお伺いいたします。

◎議長（辻田 実君） 小沼経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 他の地域の数字等を今拝聴したわけでございますけれども、私どもの方でどういう形態のそういう認定農家がほかの地区に多いのかなというふうな感じを持つわけでございますが、北海道だとか酒田ということになりますと、やはり米どころ、いわゆる水稲というような部分もあろうかと思えます。そういう中で、館山市の場合に、いわゆるその水稲だけではなく、酪農とか野菜の複合経営農家が認定農家に――5戸という数、少ない数ではございますが、なったということは大変すばらしいことじゃないか。

ただ、その農家が自主的に出るんじゃないくて、もう少し行政としての支援が必要ではないかという御質問でございますが、例えば農地の利用集積とか、融資関係の支援だとか、そういうような部分を通じまして、そういう農家が出てくることについて、行政としても側面から援助をしていきたい、このように考えております。

以上です。

◎議長（辻田 実君） 9番島田さん。

◎9番（島田 保君） わかりました。

それでは、次の法人あるいは地域組織の問題についてちょっとお尋ねをいたしますけれども、実を言いますと、私はことしの2月に島根県の津和野町へ行ってきまして、ここは農業法人ということでもって、実際に現地へ行って視察をしてきたわけでございますけれども、本当の山村で、しかも兼業で、ここよりは少しは規模は大きいにしても、部落が27戸、そして農家が23戸あって、この中の14戸でいわゆる法人をつくって共同作業をしているわけでございますけれども、農業というのは、1人の人が規模拡大しても――例えばうちの方にしますと、水稲をつくる上で水が必要、その水は共同でポンプを買って、そして水利当番があって、交互にやるからできることが、1人でそれだけできるかといったら、これはまず不可能なわけで、ましてや、今言った農業者がたとえ規模拡大したにしても、恐らく借り地がかなりあると思う。

そうなったときに、道路が壊れたからつくれなくなったとか、あるいは水がないからつくれないといったら、恐らく私はつくらないと思う。それを守るのは集落で守る以外にないんじゃないか。この津和野のおくがのむら農事組合はここに目をつけまして、1人の専業農家を中心になって、あとは兼業農家でございます。そして、機械の共同購入によっていわゆる生産コストを下げて、それで何とか村を維持する。いわゆる農業を守るとは集落を守ることだ、集落を守るとは農業を守ることだということでもって、模範的な例かもわかりませんが、私が行ったときにも随分視察の方が多くて、さばき切れないというようなことまで言っておりました。

その例に倣って私は、あえて法的な法人組織でなくてもいいけれども、いわゆる館山の農業を守る上においては、やっぱり共同の力というのが絶対に必要じゃないかなという考えをするわけでございます。

また、仮にいわゆる認定農業者だけを優遇したにしても、あとの兼業農家は要らない、米は要らないとしたら、館山市の農地はどうなりますか。この国土が本当にきれいになるためにみんなで協力して耕作して、それで緑豊かな田園風景ができるところをみんな荒らしたら、本当に荒れた農地。そこに大雨が降れば、災害も起こりやすいし、あるいは病気になるとか、悪い害虫だとかが発生する。道路に草がかぶれば、市もやっぱり自治体として掃除もする。この国土保全に、農地を荒らしちゃったら、必ず自治体は相当の費用が要るということを考えたときに、多少の予算を、農業でできなかつたら、環境の整備の格好でもいいから出すべきだと私は思うわけでございます。この点をひとつ一応お願いをしておきます。

たまたま農政審議会で一応委員に選ばれておりまして、市の方とも話をする機会もあると思いますけれども、市の基本方針をつくる上において、一応考えを述べさせていただいた方がいいかなと思ひまして、質問させていただきました。

あともう一つは、新食糧法について、わかる範囲でございしますが、御説明を願いたいと思います。

◎議長（辻田 実君） 経済環境部長。

◎経済環境部長（小沼 晃君） 新食糧法についての説明ということでございますが、従来の食糧法、食糧管理制度が流通の実態とかけ離れたというような面から、この11月から新しい食糧法が施行されるわけでございますが、従来の政府米、自主流通米 ― これは政府管理米と今まで言われていたわけでございますが、これにつきましては今度は計画流通米ということで自主流通米、政府米。しかも、価格については市場原理の導入というようなことも取り入れられている。それ以外に、計画流通米以外というようなことで、例えば産直等による米の販売が可能になった。それぞれの内容についての細かいあれはございますけれども、大きく申し上げれば以上でございます。

◎議長（辻田 実君） 以上で9番議員島田 保さんの質問を終わります。

以上で通告による一般質問を終わります。

散 会 午後4時47分

◎議長（辻田 実君） 本日の会議はこれにて散会といたします。

なお、明14日から18日まで議案調査のため休会、次会は9月19日午前10時開会とし、その議事は一般議案及び補正予算の審議を行います。

この際申し上げます。一般議案及び補正予算に対する質疑通告の締め切りは14日正午、平成6年度各会計決算に対する質疑通告の締め切りは19日正午でありますので、申し添えます。

◎本日の会議に付した事件

1 行政一般通告質問